

「東日本大震災からの復興土地区画整理事業の記録（概要）」と応援支援者のアンケート調査結果について

公益社団法人街づくり区画整理協会は、平成 23 年の東日本大震災からの復興事業がスタートした以降、復興区画整理に係る国土交通省からの受託調査及び自主的な調査・研究の記録整理の一環として、この小冊子「東日本大震災からの復興土地区画整理事業の記録（概要）」を作成いたしました。

この小冊子は、東日本大震災の復興土地区画整理事業の概要を取りまとめるとともに、全国から被災地に対して応援支援された公共団体等の職員の方々の、応援支援の実績を再整理させて頂き、それらを関係者の方々に再認識して頂くことを目的として作成しました。

そして、全国から被災地に対して応援支援された公共団体等の職員の方々へこの小冊子を配布するとともに、応援支援に携わられた方々の「想いと経験」を今後の復興支援に生かすことを目的に「復興支援に関するアンケート調査」にご協力頂きました。

この「復興支援に関するアンケート調査」の結果では、後半部分の自由意見において、応援支援に携わられた方々の「想いと経験」が、数多く具体的に記載されています。

これらが、今後の災害復興事業及び復興支援の立案、並びに復興支援に携わろうとする方々への一助となれば幸いです。

令和3年 10 月吉日

公益社団法人 街づくり区画整理協会
理事長 竹内 直文

東日本大震災からの復興土地区画整理事業へ 応援支援された方々へのアンケート調査結果

東日本大震災に係る復興土地区画整理事業のために、全国の地方公共団体等の職員の方々が東北3県の被災地に対して応援派遣されました。

それらの方々に、小冊子「東日本大震災からの復興土地区画整理事業の記録(概要)」を配布し、併せてアンケート調査をお願いしたところ、約3割の方々からご回答をいただきました。

◆復興支援への派遣者数とアンケート調査への回答者数

市街地整備分野の 復興支援への派遣者数	小冊子配布とアンケート調査 への依頼者数	アンケート調査への 回答者数
656 名(※1)	611 名(※2)	198 名(32%)

※1:平成23年度から令和3年3月末までの間で、短期間の方も含む

※2:退職等により送付先が不明の方々(45名)を除く

◆アンケート調査の項目は、以下のとおり

1. 派遣等の概要
(1)派遣元の状況(派遣時の所属自治体)
(2)派遣者の状況(派遣時点)
(3)派遣者の方の派遣時までの区画整理関連業務の経験年数
(4)派遣先の自治体
(5)派遣された時期(担当された復興事業の段階)
(6)派遣された期間
(7)派遣先で担当した区画整理関連業務
2. 復興事業の支援に携わった感想等
(1)復興事業に携わって、業務でのやりがいは感じましたか
(2)復興事業に携わっての満足感・達成感がありましたか
(3)担当した業務はこれまでの業務と比べて難しかったですか
(4)これまでの業務経験は復興事業の現場で活用されましたか
(5)復興事業に携わって得たものとして、どのようなものがありましたか
(6)復興事業に携わった際の課題や不安等がありましたらご自由にご記載ください
(7)今後、別の地域での災害復興支援が必要な場合に参加したいですか
(8)今後、新たに災害復興支援に行かれる後進の方々に對して、アドバイスがあればご記入下さい
(9)ご自身が担当した業務において、例えば、事業の立上げ、事業手続き、合意形成、工事進捗、市街化促進、立地促進等の工夫によって、成果があった事柄があれば、お教えてください
(10)今後、発生する災害復興事業において、事業を推進するための提案等があれば、お教えてください ご自身が担当された業務に限らず、例えば、「〇〇の仕組みや〇〇の制度があれば、事業(手続き、合意形成等)を早く進めることができた。」という内容があれば、お教えてください

※「2. 復興事業の支援に携わった感想等」の自由意見(P.8以降)は、個人の意見であり、組織の見解とは異なります。

また、一部を除き、具体の自治体名や地区名は、伏せてあります。

◆ご回答いただいたアンケート調査の集計結果は、以下のとおり

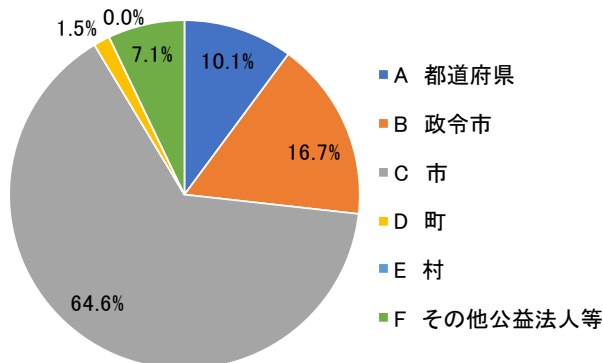
1.1_ア_自治体区分

1.派遣等の概要

(1)派遣元の自治体

ア 区分

	回答数
A 都道府県	20 (10.1%)
B 政令市	33 (16.7%)
C 市	128 (64.6%)
D 町	3 (1.5%)
E 村	0 (0.0%)
F その他公益法人等	14 (7.1%)
計	198



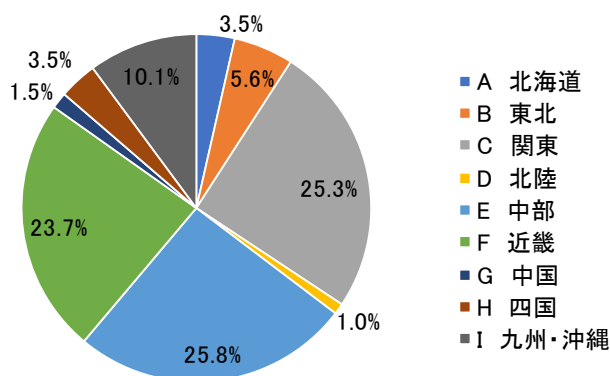
1.1_イ_自治体の所在

1.派遣等の概要

(1)派遣元の自治体

イ 所在

	回答数
A 北海道	7 (3.5%)
B 東北	11 (5.6%)
C 関東	50 (25.3%)
D 北陸	2 (1.0%)
E 中部	51 (25.8%)
F 近畿	47 (23.7%)
G 中国	3 (1.5%)
H 四国	7 (3.5%)
I 九州・沖縄	20 (10.1%)
計	198



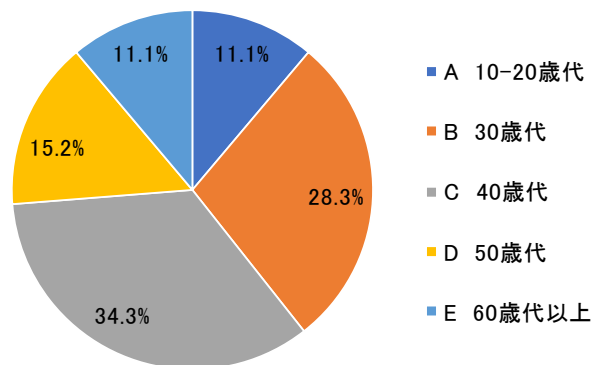
1.2_ア_年代(派遣時)

1.派遣等の概要

(2)派遣者

ア 年代

	回答数
A 10-20歳代	22 (11.1%)
B 30歳代	56 (28.3%)
C 40歳代	68 (34.3%)
D 50歳代	30 (15.2%)
E 60歳代以上	22 (11.1%)
計	198 (100.0%)



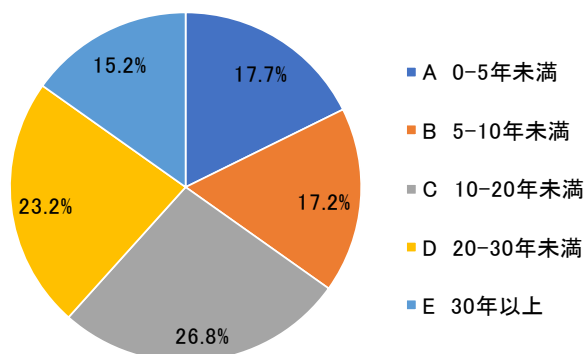
1.2_イ_勤続年数

1.派遣等の概要

(2)派遣者

イ 勤続年数

	回答数
A 0-5年未満	35 (17.7%)
B 5-10年未満	34 (17.2%)
C 10-20年未満	53 (26.8%)
D 20-30年未満	46 (23.2%)
E 30年以上	30 (15.2%)
計	198

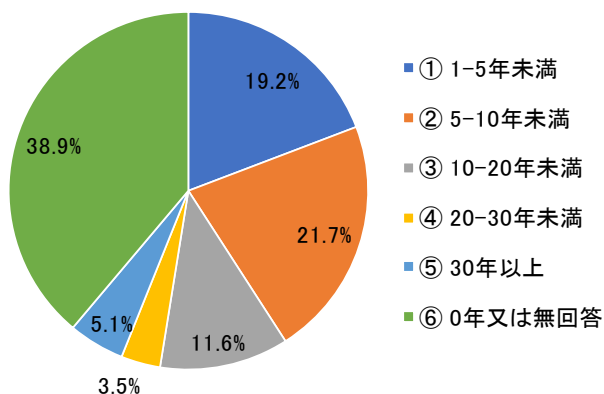


1.3 区画整理関連業務の経験年数

1. 派遣等の概要

(3) 区画整理経験年数

	回答数
① 1-5年未満	38 (19.2%)
② 5-10年未満	43 (21.7%)
③ 10-20年未満	23 (11.6%)
④ 20-30年未満	7 (3.5%)
⑤ 30年以上	10 (5.1%)
⑥ 0年又は無回答	77 (38.9%)
計	198



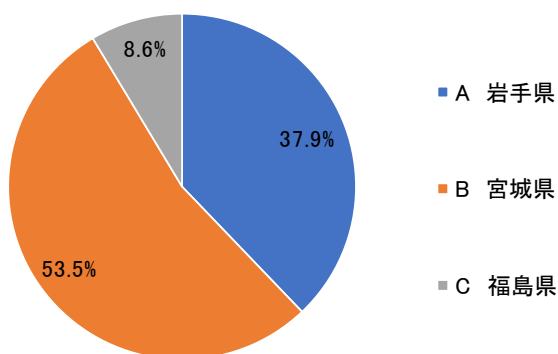
1.4 ア 自治体の所在県

1. 派遣等の概要

(4) 派遣先の自治体

ア 所在県

	回答数
A 岩手県	75 (37.9%)
B 宮城県	106 (53.5%)
C 福島県	17 (8.6%)
計	198

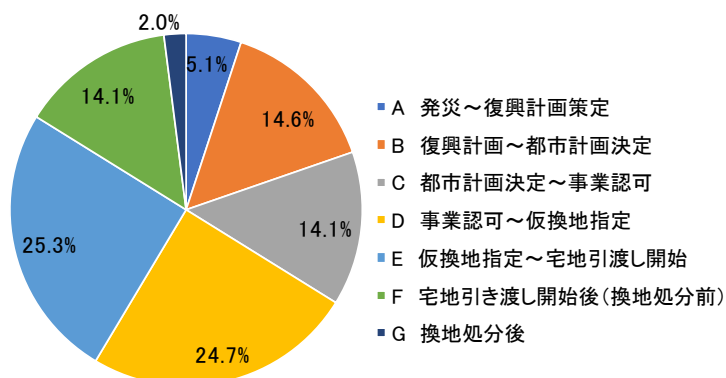


1.5 担当された復興事業の段階

1. 派遣等の概要

(5) 派遣時の事業段階

	回答数
A 発災～復興計画策定	10 (5.1%)
B 復興計画～都市計画決定	29 (14.6%)
C 都市計画決定～事業認可	28 (14.1%)
D 事業認可～仮換地指定	49 (24.7%)
E 仮換地指定～宅地引渡し開始	50 (25.3%)
F 宅地引き渡し開始後(換地処分前)	28 (14.1%)
G 換地処分後	4 (2.0%)
計	198

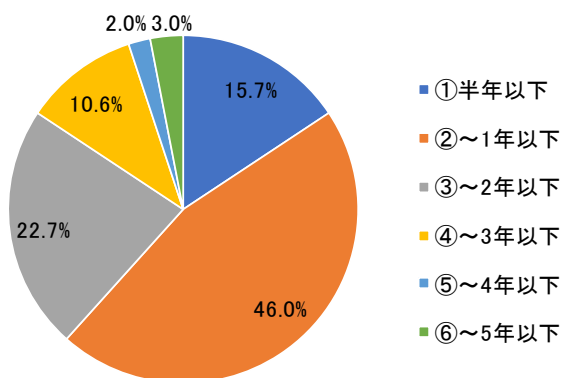


1.6 派遣された期間(年)

1. 派遣等の概要

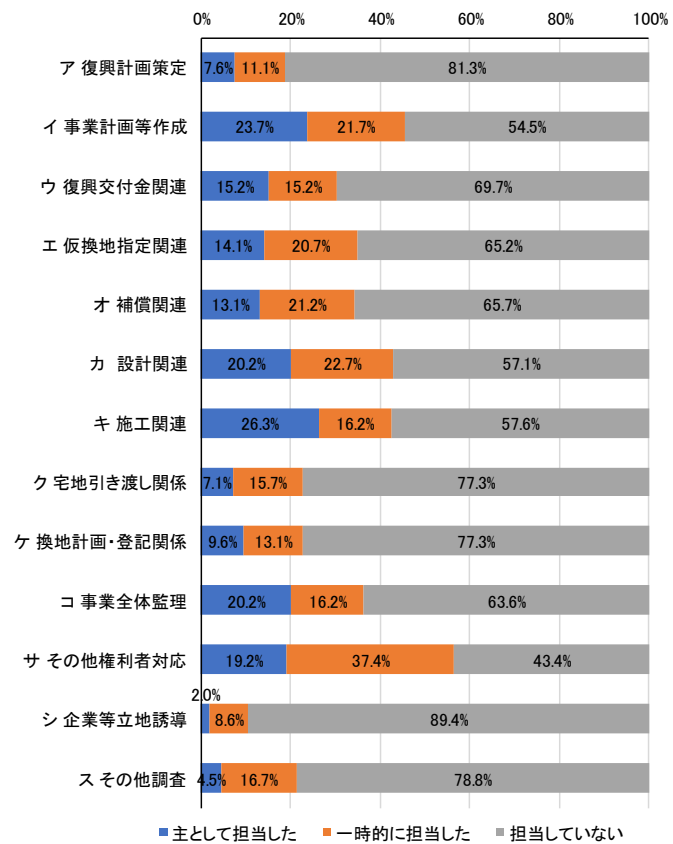
(6) 派遣期間

	回答数
① 半年以下	31 (15.7%)
② ～1年以下	91 (46.0%)
③ ～2年以下	45 (22.7%)
④ ～3年以下	21 (10.6%)
⑤ ～4年以下	4 (2.0%)
⑥ ～5年以下	6 (3.0%)
計	198



1.7 派遣先で担当した区画整理関連業務

	主として 担当した	一時的に 担当した	担当して いない
ア 復興計画策定	15 (7.6%)	22 (11.1%)	161 (81.3%)
イ 事業計画等作成	47 (23.7%)	43 (21.7%)	108 (54.5%)
ウ 復興交付金関連	30 (15.2%)	30 (15.2%)	138 (69.7%)
エ 仮換地指定関連	28 (14.1%)	41 (20.7%)	129 (65.2%)
オ 補償関連	26 (13.1%)	42 (21.2%)	130 (65.7%)
カ 設計関連	40 (20.2%)	45 (22.7%)	113 (57.1%)
キ 施工関連	52 (26.3%)	32 (16.2%)	114 (57.6%)
ク 宅地引き渡し関係	14 (7.1%)	31 (15.7%)	153 (77.3%)
ケ 換地計画・登記関係	19 (9.6%)	26 (13.1%)	153 (77.3%)
コ 事業全体監理	40 (20.2%)	32 (16.2%)	126 (63.6%)
サ その他権利者対応	38 (19.2%)	74 (37.4%)	86 (43.4%)
シ 企業等立地誘導	4 (2.0%)	17 (8.6%)	177 (89.4%)
ス その他調査	9 (4.5%)	33 (16.7%)	156 (78.8%)

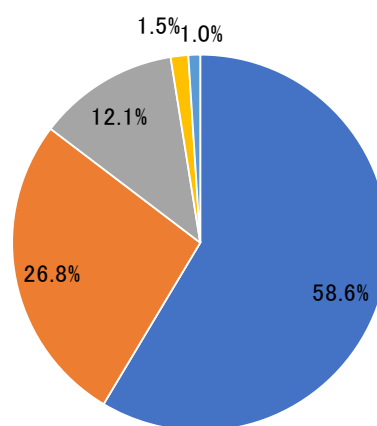


2.1

2.復興事業等の支援に携わった感想等

(1)業務でのやりがい

	回答数
A 大変やりがいがあった	116 (58.6%)
B やりがいがあった	53 (26.8%)
C やりがいを感じる時とそうでない時があった	24 (12.1%)
D 普通	3 (1.5%)
E あまりやりがいを感じなかった	2 (1.0%)
	198



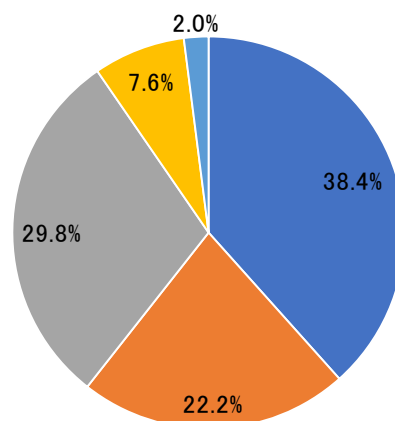
- A 大変やりがいがあった
- B やりがいがあった
- C やりがいを感じる時とそうでない時があった
- D 普通
- E あまりやりがいを感じなかった

2.2

2.復興事業等の支援に携わった感想等

(2)満足感・達成感

	回答数
A 大変あった	76 (38.4%)
B あった	44 (22.2%)
C 達成感もあるが心残りもある	59 (29.8%)
D 心残りが多い	15 (7.6%)
E 特に意識せず業務を遂行した	4 (2.0%)
計	198



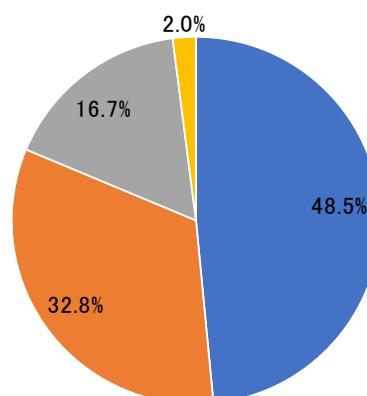
- A 大変あった
- B あった
- C 達成感もあるが心残りもある
- D 心残りが多い
- E 特に意識せず業務を遂行した

2_3

2.復興事業等の支援に携わった感想等

(3)難しかったか

	回答数
A 業務条件(期間等)、業務内容ともに課題が多かった。	96 (48.5%)
B 業務内容的には一般業務と変わらないが条件(期間等)での課題が多かった	65 (32.8%)
C これまでの業務と同様に対応できた	33 (16.7%)
D その他	4 (2.0%)
計	198



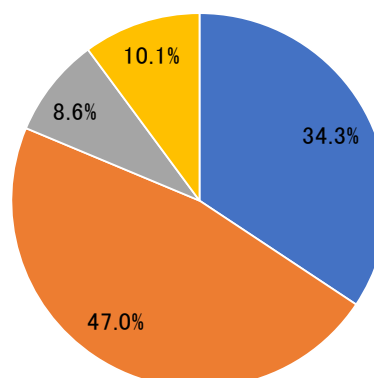
- A 業務条件(期間等)、業務内容ともに課題が多かった。
- B 業務内容的には一般業務と変わらないが条件(期間等)での課題が多かった
- C これまでの業務と同様に対応できた
- D その他

2_4

2.復興事業等の支援に携わった感想等

(4)経験の活用

	回答数
A 十分活用できた	68 (34.3%)
B 活用できた場面と、状況が異なり活用できない場面の双方があった	93 (47.0%)
C 状況が異なるため、あまり活用できなかった	17 (8.6%)
D これまで経験していない業務を担当した	20 (10.1%)
計	198



- A 十分活用できた
- B 活用できた場面と、状況が異なり活用できない場面の双方があった
- C 状況が異なるため、あまり活用できなかった
- D これまで経験していない業務を担当した

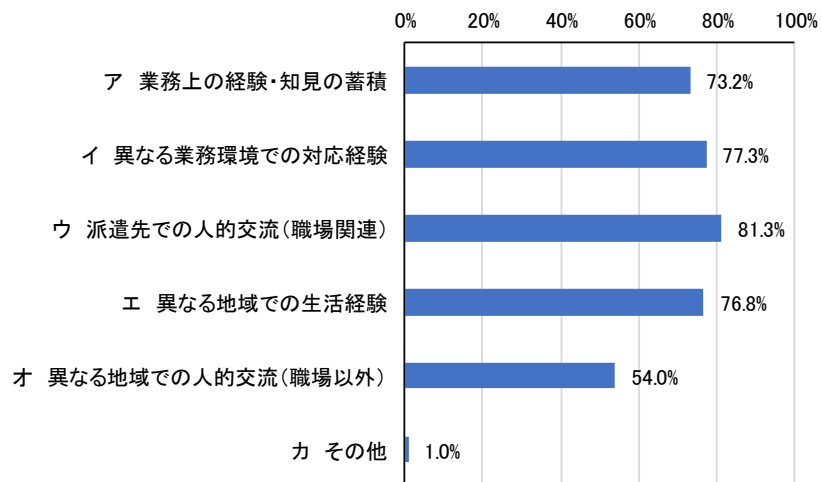
2.5

2.復興事業等の支援に携わった感想等

(5)復興事業で得たもの

	回答数
ア 業務上の経験・知見の蓄積	145 (73.2%)
イ 異なる業務環境での対応経験	153 (77.3%)
ウ 派遣先での人的交流(職場関連)	161 (81.3%)
エ 異なる地域での生活経験	152 (76.8%)
オ 異なる地域での人的交流(職場以外)	107 (54.0%)
カ その他	2 (1.0%)
回答者数	198

※複数回答

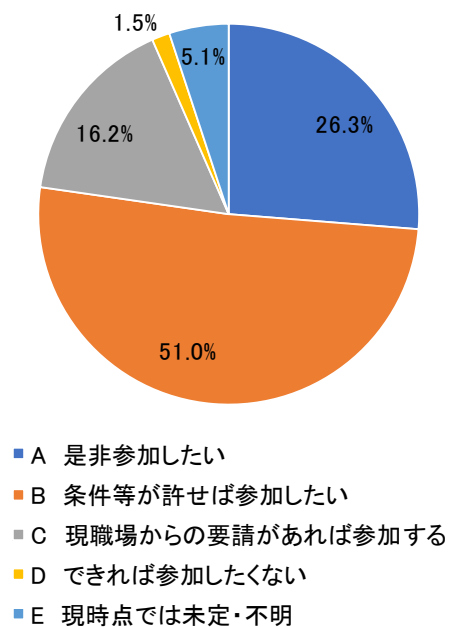


2.7

2.復興事業等の支援に携わった感想等

(7)今後の参加

	回答数
A 是非参加したい	52 (26.3%)
B 条件等が許せば参加したい	101 (51.0%)
C 現職場からの要請があれば参加する	32 (16.2%)
D できれば参加したくない	3 (1.5%)
E 現時点では未定・不明	10 (5.1%)
計	198



2. 復興事業等の支援に携わった感想等

(1) 復興事業に携わって、業務でのやりがいは感じましたか

選択肢	自由意見
A 大変やりがいがあった	1 自分の携わった業務が、直接被災地の復興につながるというのが、派遣されている者としてプレッシャーでもあり同時にとても大きなやりがいでもあったと思います。
	2 市民の方々との話し合いには、感謝の気持ちがこもっており、やりがいのある勤務であった。
	3 街全体の大規模な区画整理を経験させて頂きました。
	4 都市計画決定から、換地処分まで担当し、街区公園のインフラメンテナンスなど全体をマネジメントすることができたことが良かった。
	5 個人墓地が散在しており、津波で倒壊した墓石や土地の複雑な権利関係の処遇に苦勞した。
	6 被災跡地を有効利用するため区画整理事業を実施し、新たな街が形成されて行く過程を目にすることができたこと。
	7 補償業務に関して、今まで培った経験を大いに発揮出来ました。
	8 被災した傷跡が残る風景から新しい建物が建築され、まち開き式まで開催することができたため。
	9 UR都市機構との事業調整、現場の進捗、電線地中化の検討、土地買収の積算、事故対応、市民との折衝などきりが無いが、これほど濃密な業務を乗り越えたときのやりがいは大きい。
	10 中心市街地の30haの仮換地を半年でほぼ完了した。 当所は仮換地の直答(※時期等?)について多くの問い合わせがあつて日々対応に苦慮した。
	11 地縁血縁のまったくない土地でしたが、全国の多くの仲間とともに思う存分仕事ことができました。大変でしたが非常にやりがいのあつた一年でした。
	12 区画整理事業に携わったのは初めてだったが、それまで従事していた固定資産税賦課事務、開発許可事務、それから個人的に勉強していた土地家屋調査士の知識がいろいろなところで役に立った。
	13 大変なやりがいではあったが、あまりにも己の知識不足が多く、申し訳なく思うことが多かった。
	14 未曾有の震災の中、自治体職員しか経験できない業務に携われることができ大変やりがいを感じた。
	15 派遣職員として県外からよくきてくれたと、地元の方々から感謝の気持ちをもらったことが非常にうれしく心に残っている。
	16 今迄経験した事のない事業スピードと住民同意の為の日々の説明会、国や県との連日の協議による連携調整。間に挟まれクッション材的な役割は限界に近かったような気がします。
	17 被災者の立場になり、迅速で丁寧な震災復興業務に携わることができました。
	18 タイムスケジュールがタイトで、毎日が時間を忘れて業務をこなしていた気がしました。
	19 換地処分、清算金事務や地権者説明など事業後半の全般の実務を担当でき、仕事にやりがいがありました。
	20 △口県からの任期付も含め、派遣先に8年、派遣となっている。派遣先の権利者の相關関係も把握し、長期の派遣者が望ましいと思います。
	21 復興事業及び区画整理事業の経験が無かったため、着任当時は不安であったが、諸先輩方の教えもあり、少しずつ覚えていき、事業に貢献することができた。
	22 震災復興区画整理は初めての経験であったが、地元職員、派遣職員とコミュニケーションを図りながら進めることができた。これまでの経験が役に立ったと思っている。
	23 1年と短い期間でしたが、事業の立ち上げ時に携わることができ大変やりがいがあつた。
	24 復興事業は長期的になることから、業務実施に際しては地元職員を取込み、業務引継ぎを意識して従事した。
	25 被災者と地域のため、今後の将来、安全安心できるまちづくりができることにやりがいを感じていた。また、財産を扱うことに被災者の人生に大きな影響を与えることから慎重に業務を遂行した。
	26 派遣元自治体と違う地域特性があり、非常にやりがいがありました。
	27 派遣された2年間で被災した市街地がこれから生まれ変わるぞという息吹を感じた。
	28 災害等有事における区画整理の有効性を体感したり東京以外の地方都市の区画整理の進め方等を学んだことは自身にとっては大きな成長の機会だった。
	29 家庭環境が許せば、もう少し長い期間出来たかもしれない。
	30 平時ではありえない規模の計画策定に関わったことは得難い経験になった。被災地における行政の役割は重く、一つの業務がうまくいけば住民に喜ばれ、うまくいかなければ大きな失望を与えることを肌で感じ、責任感もやりがいも非常に大きかった。
	31 これまでの土地区画整理事業の実務経験を活かすとともに、まちづくり協議会の立ち上げから、地元の方たちとの話し合い、まちづくり提案に至るまで携われて、とてもやりがいを感じた。
	32 地権者等、地元はとても協力的であった。
	33 派遣先の震災復興計画の策定に中心的な立場で関わることができ、苦勞も多かったが、同時に大きな充実感があつた。
	34 国や社会全体が震災復興に総力をあげて取り組んでいた時期に、短い期間ではあるが、震災復興土地区画整理事業の業務に携わることができたという点で大変やりがいを感じた。

選択肢		自由意見
A 大変やりがいがあった	35	派遣元の自治体では、既成市街地の整備しかした事がなく、被災地において目に見える形でまちづくりが出来た事や、地域の人々の大きな期待を背負って業務を遂行し、感謝してもらえた事で、大きな達成感を感じた。
	36	派遣先の土木・建築職の幹部のほとんどが亡くなっており、派遣職員が引っ張っていかないと町の復興が進まないと思い、風土・土地勘に慣れながら、町に必要な事は何かを短い期間ながら考え、業務に携わり、非常にやりがいがありました。
	37	復興事業の事業規模及び予算額について驚きでした。
	38	UR都市機構と協力しながらの事業であったので初めての経験で少し違和感があった。
	39	阪神淡路大震災の復興事業の経験者として、派遣先の震災復興事業の立ち上げ段階から軌道に乗るまでの間に従事できたことは、自身の経験を十分に発揮でき、復興事業に携わる多くの人と同じ思いで仕事できたことは、自分の人生経験の中で大きな出来事となったから
	40	被災者に対する復興事業を行えることは大変やり甲斐のあるものであるし、地元が被災地となった場合にも生かされると思う。また、私は主に工事の設計と施工監理をしていたが、事業規模が大きく、公園や、区画道路といった経験が無い工種にも携わることができた。
	41	大変やりがいを感じただけに、担当したのが1年ということもあり力が及ばない部分も多く、派遣先には大変心苦しかったと感じていた。
	42	赴任した時は、過去の計数ミスから復興交付金が認められない塩漬け状況であったこと、すぐにも事業計画変更が必要な状況（特に事業費）であったことから、事業を始めることが最優先事項であり、やりがいはあった。
	43	震災復興に短期間ではあったが携われたことは非常に感慨深く感じる。
	44	短期間で権利者への説明、関係機関との調整など事務的な作業を行った。事業は、土地区画整理事業だけでなく、移転土地の買収、公園設置、道路、橋梁設置と多種にわたっていた。
	45	派遣元の事情により派遣期間が短かったので、仕事としては満足できませんでした。
	46	初めて携わる区画整理事業を、復興支援として行うため、これまでの経験や知識で対応できることは少なかった様に感じます。しかし、通常業務では、得られない貴重な経験を積むことができたことにより、現在、危機管理の計画立案や対応時に活かすことができています。
	47	復興整備事業の進捗に伴い、安全な街の骨格が出来る様子を見てやりがいを感じた。
	48	派遣前は建設コンサルタントで〇〇県自治体の復興計画に携わっていましたが、補助ではなく自分自身で復興の役に立ちたいと思い任期付き職員の募集をされていた△△県に応募しました。
B やりがいがあった	1	区画整理だけでなく、防災集団移転、道路事業（収用事業）など、様々な復興事業に関わり、まちづくりに寄与できたこと。
	2	1年という短い期間ではありましたが、大変勉強になりました。また、もっと力になればと思いました。がなかなか力になれず申し訳ない気持ちでいっぱいです。
	3	主な業務は事業の地元説明会や意向調査。多くの被災された方々と対面し、話を聞くことができた。
	4	平成25年から8年間にわたり東北3県の4自治体で業務に携わってまいりました。当初はがれきの山だったところが、宅地整備されて被災者が元の場所に戻るのを見てやりがいを感じました。
	5	被災した方々がどうにか復興を成し遂げたいという思いがありやりがいがあった。
	6	派遣先職員及び被災者の方々から復興進捗への期待、派遣へのねぎらいを頂き、平時の公共事業に比べ一層使命感を持って取り組むことができた。
	7	地域をはじめ、プロパーの方々の派遣職員への感謝の気持ちを強く感じた。
	8	震災復興にお役にたてたと思う。
	9	UR都市機構と仕事ができ貴重な経験ができた。
	10	地元自治体では目減りしている公共事業に集中して作業ができた。またそれが地域より求められていたため。
	11	方言などがわかりにくい部分はありましたが、やりがいはありました。
	12	派遣先は、〇〇地区の復興をUR都市機構に委託していたが、URは事業者であり、自治体で意思決定を行ってもURの意思決定も必要で、具体的に仕事を動かすのに意思決定の時間をかなり要した。
	13	被災者の意向を確認しつつ、1日でも早い復旧・復興の実現のため、多くの派遣職員やプロパー職員と共に全力を尽くした。
	14	被災地の早期復興という共通認識の元、職員のモチベーションが高かった。
C そを感あでじやっなるりたいたい時とい	1	人材の配置が適切ではなかった。URの事業への関わり方に疑問を感じた。
	2	中間管理職の多くを震災でなくされているので、組織としての機能不全が多々見られた。現在も余り改善が見られない。
	3	多くの権利者の方と面談して個々の事情を聴く中で、津波被災地特有の復興事業の難しさを感じられたことは自らにとって大きな経験となった。一方、実務経験が乏しいことにより派遣職員として力不足だと感じることもあった。
D 普通		事業に携わる職員が多いような気がした。

(2)復興事業に携わっての満足感・達成感がありましたか	
選択肢	自由意見
A 大変あった	1 「復興の最前線で仕事をさせていただいた」というのが、とても大きな達成感を感じます。
	2 困難案件が残っており、積極的に取り組み、一歩二歩でも進捗させることができた。
	3 駅前商店街が完成できたことは、大変嬉しく思いました。
	4 全体をマネジメントしながら、復興計画どおりに事業完了することができ、担当技術者として非常にやりがいのある仕事だった。
	5 地元住民から急かされたが、進捗があるととても喜んでいただき、こちらもうれしかった。
	6 地元の建設業者が、これまで経験したことが無い規模の事業量であったが、発注者としてこれまでの経験を活かし、官民一体となって事業を進めることができた。
	7 担当した権利者の建物が再建築され、新しい生活が始まるのを直に目で見て、肌で感じることもできたため。
	8 URとの事業調整、現場の進捗、電線地中化の検討、土地買収の積算、事故対応、市民との折衝などきりが無いが、これほど濃密な業務を乗り越えたときのやりがいは大きい。
	9 仮換地が進むにつれ、権利者がポジティブになったのでより一層頑張りがいいがあった。
	10 短い期間ではあったが、全国各地からの派遣職員と職場を共にし、協力・交流もあり、派遣期間をのりきった。
	11 通常では都市計画決定、事業認可までは複数年かかると思われるところを、年末には都市計画決定、年度末には事業認可を得ることができました。自分としては十分な達成感を得て、次の人に引き継ぎました。
	12 震災当時の話を被災者だけでなく派遣先の職員などからも詳細に聞くことができたこと、また自分の目でも様々な被災状況を見ることができたことで、昨年の台風災害時に少なからず参考にできたため。
	13 用地補償業務の経験を生かし、関係皆様の協力を得ることができました。
	14 他部署のチームと連携しながら進めることができた。短い期間であったが達成感はある。
	15 行政職員である以上、自然災害が起こった際に、何か力になりたいと常々思っていたため、微力ですが自身がかかわることができ感謝しています。
	16 復興計画に基づき、復興事業の都市計画決定から事業決定までを1年以内に整え、土地区画整理事業による復興事業を開始させた。
	17 被災者より感謝の言葉をもらうことで、すぐ達成感を感じていた。
	18 各都市からの寄せ集めのメンバーだったが、それぞれ目的意識をもってスピード感を持って、事業を前進させる意気込みが伝わり、刺激的だった。
	19 瓦礫状態から目に見えて変化していく街並みの日々の変化を見届ける事が出来たから。
	20 派遣も含め区画整理事業の実経験がない者ばかりの中での事業であったこと、並行して復興公営住宅事業化の段取りも行う必要があったが、結果的にはうまく進んだので満足している。
	21 町民とのワークショップや報告書のまとめ、県や国との調整などの作業があった。
	22 私が派遣されたのは震災二年後で、当時派遣先では防集移転先の7団地の計画が既にまとまり、区画整理の2団地はURが職員も常駐して進められていました。 他の5団地は開発行為で、これも他の公共団体から派遣されていた職員が主体となり工事着手の段階でした。 私が主に担当したのは多重防御計画と被災地の土地利用に関することです。
B あった	1 事業中の経緯を踏まえ、復興後の落ち着いたまちを見たとき 達成感だけでなく、不備な点も多く、「まちづくり」の難しさを感じる。
	2 未経験の業務であったため、UR等の知識経験豊富な技術者のサポートが大きかった。
	3 個人的には一番頑張った仕事だし、形になって残っているのは感慨無量です。
	4 インフラ等の整備では達成感があったが、基本的に高盛土による原型復旧であり、将来人口の減少による、過剰な整備及び働く場所の提供不足などの課題があった。
	5 担当した復興土地区画整理事業は3件あり、大きなトラブルはなく、完了できたことに達成感がありました。
	6 定められた期間の中で自分のあたえられた業務が遂行できたと思っている。
	7 支援業務に携わり自身のスキルアップにもつながったと思う。
	8 25年に教育施設復旧、26年に防災集団移転事業を担当し、工事完了まで担当できずに大変心残りでした。再度の派遣募集で希望して、区画整理担当している。
	9 震災復興にお役にたてたと思う。
	10 事業進捗にスピード感があり感心した。
	11 復興が進んでる実感がありました。

選択肢		自由意見
B あった	12	自分の人生の中で最も濃密な時間で、また今後携わることもない事業規模であった。任期の終わりには何とも言えない達成感はあった。しかし、それが本当に派遣先のためだったのかは今も引っかかっている。
	13	復興に少しでも協力できたこと。
	14	私が着任した段階では、ある意味で出来て当然だったので大きな達成感はなく、出来て安心したといったところです。 また、地元の職員と相談の上で造っていったので心のこりもありません。
	15	約1年という短い期間ではあったが、担当業務のやりがい愛着、達成感はあった。任期のしびりがなければ、もっとやりたかった。
C 達成感もあるが心残りもある	1	事業全体を見ての事業推進が出来ていなかったように感じた。
	2	例えば、議会の答弁書等も答弁書では情報公開の対象となるので、答弁メモとすべきと助言したが実行したのは、3年後でした。また、各種事業の成果品の検査、収納が稚拙である。
	3	工事の進捗の遅れにより、派遣期間中に完了する予定だった換地処分が完了しなかった
	4	事業全体がそうだったので仕方ないが、派遣開始時の当初予定よりも進捗が遅れ、派遣終了時にやり残した感があった。
	5	派遣が1年と短い期間であったため、もう少し携わりたかったという想いもあった。
	6	現実には土地区画整理事業であるため進め方等は同じであるため、復興事業であることをあまり実感はできなかった。
	7	地域の特性からスタンダードでない面があった事。
	8	最後まで見届けることができなかったため。
	9	主として担当した現場や設計、地権者との対話など、すべて途中の状態での次の派遣者に引き継いだため、目に見える進捗は多くなく、もっと長く関わりたい気持ちが残った。
	10	単身赴任で2年間の派遣だったが、できればもう少し居たかった。
	11	事業立ち上げ時に派遣となり、被災者の早期生活再建を目標にスピード感を持って進めたが、取りこぼしや、制度矛盾等が後から発覚し、後任職員に負担をかけたことは心残りであった。
	12	被災から間もない頃に赴任し、何から手を付けてよいかわからない混乱の中、プロパー職員とともに無我夢中に復興計画の策定に携わった。やっと道筋がついて「これから」という時に任期が終了した感が強く、心残りは多い。
	13	復興事業に対して派遣期間は短くまた、3～5年間の派遣されることも現実的ではないため、ジレンマがある。
	14	派遣時、地元の方たちは復興事業に対する行政への不満がピーク状態の中、いきなり個別面談を実施したときは厳しかったが、事業認可され、地元主導でまちづくりを進めるに至るまでになったことでとても達成感を感じる。できれば換地処分まで復興支援を行いたかった点が心残りである。
	15	派遣期間を2度延長し、2012年秋までの期間において、町中心部の復興事業に関する都市計画決定ができた。同時に、その後、進捗が急がれる各種事業の実務に関わる前に帰任することに、心残りもあった。今でも毎年、復興状況を確認し、町長をはじめ町の皆さんと交流するため、派遣先に行っている。
	16	事業計画決定に時間を要したため、派遣されている間に現場の復興を見ることができなかったのは心残りだった。
	17	用地事務を始め、多様な業務を並行して進めましたが、派遣期間内にめどがついたものと、まだまだ先が見えないものもあり、復興に携わるには短い派遣期間と思いました。
	18	6か月の派遣期間内で、達成感と共にやり残し感が非常にあります。
	19	少なくとも、換地設計から権利者への説明まではやりきりたかった部分はある。
	20	派遣職員が亡くなってしまったこと。
	21	2年間の為、完結したものもあるが、多くは事業途中で離れることになった。
D 心残りが多い	1	事業の途中から参加し、途中で戻ってしまったため、やり残したことがありすぎました。
	2	派遣期間が3か月間と短く、事業を進められたという実感もないまま終えてしまったため。
	3	知識不足と期間の短さからもっと戦力になりたかったという思いが強い。
	4	区画整理の設計(道路、公共施設配置等)を最後までやりたかったが、任命期間満了により断念したことが心残りである。
	5	派遣先では自身の知見で業務をおこなったが、設計業務では派遣先の課題の意識や方向性とあっていないことが後でわかった。
	6	経験したことのない事業でもあり、短期間での派遣であったことから復興計画・事業の把握に有したため、深く関わることはできなかったことが残念である。
	7	派遣期間が短かった。慣れてきたところに次の人に引き継ぐことになり、残った人たちに申し訳ない気持ちがあった。

(3)担当した業務はこれまでの業務と比べて難しかったですか	
選択肢	自由意見
A 業務条件（期間等）、業務内容ともに課題が多かった。	1 区画整理はやったことがなく、慣れるまで時間がかかってしまいました。即戦力にはなれず申し訳ない気持ちでいっぱいです。
	2 漁業関係者との調整
	3 スピードが求められること、地権者全員が被災者であることなど、苦労が多かった。
	4 海も山も近く、今まで身近になかった法律に携わり、他の復興事業も隣接していたので、金銭的にも、時間的、位置的なことなど様々な事業間調整が必要だった。
	5 地権者との移転交渉の経験しかなかったため、被災地で与えられた業務はほぼ新規であった。職員やURIに協力していただき遂行できた。
	6 中心市街地で公共用地確保に飛び換地等が多々有説明に苦労した。
	7 地名、地質、人、言葉、歴史など地域の実情がまったくわからないなかで、震災復興のスピード感を重視しながら、多くの地権者と調整を図り、区画整理区域や防災集団移転先の設定には非常に多くの課題がありました。
	8 ITネットワークなどの整備が派遣元とは異なっており、業務の進め方も異なっていたことから、今あるものでどこまでできるのかというのを試行錯誤しながらやっていた部分もあった。
	9 津波復興の区画整理事業であり、成功のカギは一旦離れた人達の早く戻って来たいと言う気持ちが消えないうちに着地できるように、スピードを重視しました。その後の結果とすれば以降の派遣職員や村職員、住民の協力の基に早く事業完了させ、整備区域の活用も達成されているようです。
	10 応援職員も少ない時期の派遣であったため、一人で何役も行う必要があり、かつ自身の派遣期間が1年と短い期間での業務であったため、常に時間に追われながら業務を行っている感覚でした。
	11 これまで経験のない事業手続きであったため、大変苦労したが、反面では大変勉強になり、市街地整備事業の知識を深めることができた。
	12 事業計画変更で県とUR都市機構の板挟みに遭い、資料作成等に苦労した。（UR都市機構が当方が求める資料の作成に時間を要し、県から幾度となく催促があったことなど）
	13 県との協議が多くあり、特に海関係の協議に手こずった。
	14 区画整理事業については、全て支援自治体で構成されていたため意思統一が、非常に難しかった。
	15 被災から間もない時期は、あらゆる業務が一度に求められそれぞれが待ったなしである。担当業務の線引きすらできないほど錯綜し、未経験の業務も当然含まれ、睡眠時間も取れないほどの激務となった。特殊な状況であるため、これまでの業務との比較は難しい。
	16 阪神・淡路大震災からの復興土地区画整理事業に関わった者としても、町沿岸部の住宅・住宅地を迅速に高台移転し町を再生する計画調整は、多くの関係者との調整が必要であった。国の復興交付金の予算化が2011年度後半になり、秋ごろは足踏み状態であったことが悔やまれる。
	17 業務を進める上で、土地区画整理事業の業務経験の有無が非常に大きいと感じた。
	18 仮設住宅で生活していた住民が、区画整理を待てずに他地区で生活再建を始めてしまうなど、住民の気持ちが続く間に完成させなければならず、期間的に難しかった。
	19 周辺の他自治体で早期に内陸移転の選択が進む中、また、津波への恐怖感が拭えない被災者の方が多くいる中で、沿岸部での現地復興事業の妥当性に理解を得ることは困難が多かった。
	20 区画整理事業の用地買収関係に個人的に初めて携わったため、いろいろと勉強しながら業務を進めるのが大変だった。
	21 復興事業に関連する、国、県、町の関連部署、民間事業者等の調整会議を担当しましたが、常に問題点や課題等の連続でした。
	22 仮設住宅に避難生活をしている町民の皆さんを、いち早く定住できる家に戻すために単なる区画整理事業だけでなく、防災集団移転促進事業や津波復興拠点整備事業を同時に着手し、被災した町民の皆さんの再建にあわせた復興事業を取り入れたため事業が複雑化した。
	23 国道、県管理国道、県河川、防潮堤の再整備、重要占用物（光ファイバー）の移設、通常の土地区画整理は平面的だが、盛土を行うため3次元的な要素もあり、造成計画を行うだけでも課題が多かった。また、防災集団移転事業で被災した宅地を売却する人が続き、刻々と地権者が変わる中での事業計画策定は非常に難しいものがあつた。
	24 復興はスピードが命だと思っていたので、厳しい期間設定は一般業務とは全く異なり、コアな業務内容は一般業務と変わらないが、権利者の抱える事情が全く異なり、寄り添い方が非常に難しかった。

選択肢	自由意見	
に等 A 課、業 題が業務 多務条 か内件 つ容へ たと期 も間	25	課題というよりはかは、復興事業と区画整理が一体となっており、業務を遂行するにあたって関係機関との事業調整が大変であった。
	26	少ない人数で多岐にわたる事業や町民との調整など多種多様なものであり、たくさんの方のご協力をいただきながら進めていった。
	27	普通なら考えられないくらいの期間でたくさんやらなければならないことがあり大変だった。
	28	とにかくスピード重視を求められていたことや土地区画整理事業を初めて経験する職員が多かったことと共に、防災集団移転促進事業や津波復興拠点整備事業等、これまで経験した事のない事業にも取り組む必要があったこと。
B 業務 内容 間 的 等 に は 一 般 課 業 務 が 多 変 か わ ら な い が 条 件 （ 期	1	補償交渉を進めるうえで、土地勘がないことが支障となった。 また、補償交渉の進め方にも統一性を欠くものがあり、戸惑ったことも多かった。
	2	相談相手がいないので、元の所属自治体のまちづくり部や、東京都の外郭団体等から情報を集め対応せざるを得なかった。
	3	人手不足によりこれまで経験しなかった業務(用地買収等)を行った。また、早期復興を目指し、とにかくスピード重視で業務を遂行したため各種調整等に課題が多かった。
	4	早期の復興に取り組む、達成することができました。
	5	聞きなれない単語が多く、市民の方からの質問に答えられるよう勉強した。
	6	内陸と沿岸の地理的条件の違いと、良くも悪くも大雑把な予算立てからの工事設計や工法選定が、自身の知識不足もあり課題となった。
	7	早期復興に向けて一つ一つの作業に要すことのできる時間に制約があったことが大変であった。
	8	特にありません。
	9	一年の派遣期間は短い。
	10	事業規模が大きく、津波被害対応という事業には新たな課題が多かったが、一般業務との条件はあまり変わらなかったと考えます。
	11	スピード感は一般の区画整理と違った。
	12	6か月という期間しかなかったため、慣れるころに派遣が終了した。
	13	津波被災地の復興創生期間収束時からの派遣のため、スケジュールに余裕がない業務が多かった。
	14	区画整理そのものは従来事業と変わらないが、実経験者がいない中、区画整理審議会や復興庁への説明機会が必然的に増えた。
	15	派遣先全市を挙げてバックアップしてくださいました。
	16	事業自体は変わらないが、被災を受けた方々の生活再建も含めた復興のため、難しい事業ではあった。
C こ れ ま で の 業 務 と 同 様 に 対 応 で き た	1	復興事業なので、平常業務とは異なるが、課題把握、対応策などは、これまでの業務と相違がなくてできた。
	2	これまでの経験を活かし、業務を推進することができた。
	3	市が買い上げた宅地が大半であったことから、通常の土地区画整理事業と比較し、地権者対応が少なかった。 一方で、事業地周辺では他機関による災害復旧事業が行われていたことから、事業間の調整が必要であった。
	4	派遣元で経験した土地区画整理事業での経験を活かすことができたため。
	5	市施行土地区画整理事業の事業調査から事業計画認可まで経験があったため対応できた。
	6	〇△県は、事業計画の変更などの協議手順がわかりやすく、仕事はやりやすかった。
	7	大都市郊外部の区画整理経験しかなかったため、用地費単価の低さや、人口計画、道路設計速度や台数、東北用対連等地方都市の区画整理の考え方や、県と市との関係性等戸惑う部分は多々あったが、基本的には当初予定どおり進めることができた。
	8	経験したことが活かされた。
	9	携わった事業によって大きく変わると思う。私は派遣先の事業のうち比較的、優先度が高いものではなかった。
D 他 そ の	1	派遣前までは区画整理業務の担当課に所属しておらず、経験がなかった事から一概に比較することはできませんでした。
	2	わからない。
	3	あまり携わっていない業務であったため非常に難しかった。

(4)これまでの業務経験は復興事業の現場で活用されましたか	
選択肢	自由意見
A 十分活用できた	1 事業計画、施工管理など、これまでの業務と大きな相違はなく、活用できた。
	2 経験を活かすことができたと感じている。
	3 なんとと言っても、地権者を第一に考え、事業を進めるという基本は同じ。ただし、地権者の置かれた状況が大きく異なるため、そういった意味では苦労した。
	4 土地区画整理事業は経験浅かったが、都市計画などの経験があったので、臨機応変に対応できた。
	5 土地区画整理事業や復興事業を経験していたことから、事業を進めて行く上で、関係機関との事前調整が必要な点を押さえながら円滑に進めることができた。
	6 派遣元の土地区画整理事業での補償交渉の業務経験。
	7 町中心部から仮換地していったのでやりやすかった。
	8 都市計画以外にも土地改良、土木、下水道で通算20年以上の技術部局経験があり、自分としては十分活用できたと思っています。
	9 固定資産税賦課事務をする中で区画整理事業の知識を得ていたし、開発許可事務に従事していたことで、事務職ではあったが、道路構造や排水処理などについての知識も少しは持っていたので、換地設計においての助言等ができた。
	10 阪神淡路大震災も経験しており、その流れで、業務に入ることができた。
	11 直面する課題に対してどう対応すればよいか、これまでの経験を生かすことができた。
	12 区画整理事業というよりも都市計画決定手続きや都市計画審議会の運営などで経験が役立った。
	13 区画整理だけでなく開発行為の許認可についてもこれまでの業務経験を活かすことができた。
	14 当初は自治体ごとに特有の意思決定の流れや職場風土の違いに戸惑う面があったが、プロパー職員の助けもあり慣れることができた。
	15 担当した復興整備手法が土地区画整理事業であったことから、事業化に向けた法定手続きや関係官庁調整、業務外部委託の市役所内部調整など、これまで培った経験が大変役に立ち、事業立ち上げを短期間で達成した。
	16 区画整理経験(換地10年、事業計画4年)は活用できた。
	17 補償交渉は手慣れていたもので問題ない。 ただ、東北弁は一年では理解できない。
	18 復興は急いで行うことが大切であり、土地区画整理事業を始め、各種大規模な基盤整備事業では、特にそれまでの一定の経験が、調整力に活かされる。
	19 派遣先職員は、区画整理事業経験者が不在であったため、自分の経験を伝授すると共に、県や国との調整、またUR都市機構やコンサルタントとの協議がスムーズに出来たと思う。
	20 被災地ならではの早急な決断を迫られたり、派遣先の考え方に馴染めないこともあったが、決定的に相容れないものでもなかったもので、経験は生きたと思う。
	21 一般の区画整理業務のスキルがあればこそ、困難な課題への対応もできたと感じた。
	22 町民の方との対話や権利の説明など丁寧にご教示いただきながら進めていけました。
	23 雲仙普賢岳噴火災害による復興土地区画整理事業の経験が活かされた。
	24 防集事業による集団移転により、市が買い取った土地は200ヘクタール以上にもなります。 このまま遊ばせていけば固定資産税が入らないだけでなく莫大な維持管理費が必要になります。
	25 さまざまな課題への対応にあたって、臨機応変に対応する必要があり、これまでのいろいろ経験を活かすことが出来た。
	26 主として担当した補償業務・交渉等については、派遣元での用地補償業務部署での経験から、復興事業に大いに活用できた。
B 異なり活用できなかった場面と面の状況が	1 土木職としてのスキルが多少役立った場面もありましたが、規模が大きく打合せについていくのに精一杯でした。
	2 信号の設置や交差点形状など、地域を取り巻く状況や習慣性などの違いから考え方が違った。
	3 補償交渉の進め方がそれまで経験したものと違っておりまた、統一性を欠くものもあったため、戸惑ったことも多かった。
	4 配属先が必ずしも過去に経験した業務に関係していないところもあった。
	5 派遣前まで土地区画整理業務に直接は携わっていなかったが、固定資産税や連立立体交差事業で間接的に携わっていた知見が役に立った。
	6 復興メニューは一般事業とは勝手が違う部分が多く、日々勉強でした。
	7 地元の方言や慣習を理解することが難しかった。
	8 地元の役所で行ってきたやり方とは異なるため、戸惑いがあった。
	9 派遣元では道路工事を担当していたので、区画道路の検査などで、過去の知識を活かすことができた。

選択肢	自由意見	
B 状況が活用できなかった場面と、 活用できなかった場面と、 活用できなかった場面と、 活用できなかった場面と、 活用できなかった場面と、 活用できなかった場面と、	10	被災地の実態は、通常の手続で進めることがそぐわないことが多く、これまでの業務経験をそのまま生かせる場面は少なかった。住民への状況説明、意見聴取、合意形成においては、地権者交渉や苦情処理で培った対人折衝能力が活かされたと思う。
	11	それまでの経験を活かすことができたが、経験のない場面では苦勞した。
	12	短い事業期間での合意形成、大量の盛土材の確保、企業誘致などの復興計画など、これまでとは異なった業務で苦戦した。
	13	区画整理事業業務は経験ありませんでしたが、業務の中で知識と経験を活用できた場面もあった。
	14	復興土地区画整理事業では、法律制定時には山を切って造成することを想定されていなかったのではないかと考えられた。山を切って造成する際、砂防指定地、保安林等の解除は既存の枠組みの中で手続きを行う必要があり、解除、財産処分までに時間をかなり要した。
	15	スピード重視の部分がある一方で被災者の意向や復興まちづくり計画との合意形成が難しかった。
C 活用できた状況が、活用できなかった状況と異なっていた。	1	区画整理業務は全くの未経験でしたが、派遣元で登記関係業務を多少行っていたため、その点については役に立ったと思います。
	2	地権者との移転交渉の経験しかなかったため、被災地で与えられた業務はほぼ新規であった。職員やURに協力していただき遂行できた。
	3	都市計画区域などの基礎知識及び工事監理業務の知識及び防災担当として勤務したことにより深夜までの復興庁対応などに生かされた部分もありました。
D 未経験の業務を担当した。	1	入庁して半年後に派遣であったので、特に活用できなかった。
	2	これまでに経験した業務とは全く異なるもので、活用はできなかった。また、自分自身の経験年数が浅く、活用できるほどの業務経験がなかった。
	3	工事発注・管理をしてきたので、事務仕事は慣れていなかった。

(5)復興事業に携わって得たものとして、どのようなものがありましたか	
自由意見	
1	住んでいた地域の祭りへの参加や、派遣先のスポーツ団体(バレーボール・剣道)に混ぜてもらったことで、派遣先自治体の職員だけでなく、地域の方との交流ができたのがとても素敵な思い出となっています。
2	全国からの派遣職員、地元住民と復興完了も交流が続いており、復興支援で得るものは多かったと思います。
3	市役所全員が同じ方向を向いて仕事をしている環境を体験できたのはとてもよかったです。
4	千年に一度といわれる大震災に遭遇した技術者でなければ経験出来ない貴重な経験だった。職場の方々は勿論のこと、地域の方々とも、いまだに交流があり、人生の財産になっている。
5	見聞が広がった。
6	地域の住民の方との交流は、今でも続いています。
7	業務環境や所属が異なっている、事業完了という共通の目標があれば組織が一丸となって機能するということが経験できた。他県の派遣職員との交流や、派遣先の職員を始め地域の方々との交流はとても貴重なもの。
8	ア 派遣先自治体での意思決定の決裁方法。 イ 東北地方の人達との対応方法。 エ 冬季の水道管の水抜き、冬の朝出勤時の車フロントガラスの霜取り。
9	漁師等今まで対応したことのない職業で大声が常で賑やかだった。
10	派遣から8年が経ちましたが、いまだに当時の応援職員仲間や派遣先のプロパー職員、担当していた派遣先の地権者と連絡を取り合っています。この人的交流は自分の宝です。
11	さまざまな意味で自分の財産になりました。
12	地理的に不明ななかで、市職員の方々の親切な対応に感謝します。
13	山が多く、新たに登山という趣味が増えました。
14	地方の公務員が見ず知らずの土地にいて仕事を行うということが貴重な経験であった。そこでの人との出会いも通常では得難い経験だった。
15	経験した全てが自分自身にとってかけがえのない経験となりました。
16	復興事業の趣旨とは無関係だが、ひとつの地方公共団体にずっといるというのは閉鎖的なことで、派遣の機会を通じて公私両面で外の世界を見るという貴重な経験が出来たと思う。
17	業務上では、経験できない業務に携われて知識を広めることができた。 人的交流では、各他県派遣職員との業務共有・仮設住宅での共同生活などで色々な人と知り合うことができた。また、地元職員とも業務等を通じ多くの方々と知り合うこととなり、人脈が広がった。
18	派遣終了後、派遣先に年1回～2回訪問している。また、派遣元市内で「派遣先の漁港との連携イベント」等として派遣先の漁師をお招きして、平成28年度から年1回～2回(3日間)、浜焼き等のイベントを開催している。来場者は1回で5,000人程度で好評を得ている。
19	特殊な状況下で重大かつ膨大な業務にあたったことで、プロパー職員や他市町からの派遣職員との間に生まれた信頼感や連帯感は大い。最初の住民説明会で怒号を浴びせられた住民から、「単身赴任で大変だろう」と海で獲れたものを差し入れられるなど、こちらの誠意が通じた時の喜びは忘れられない。復興事業に携わって得たものは言葉にできないほど多い。
20	第2の職場であった。
21	派遣先の正規職員や他の自治体の派遣職員との人的交流を図れたことで、とても楽しく生活させていただいた。
22	多くの経験と、人とのつながりを得た。派遣いただいたことに感謝している。
23	震災復興事業という大変やりがいのある業務を経験することができ、また震災復興事業を進めていく過程の中で実際に業務として携わることができたことは非常に良かった。また、派遣先のプロパー職員や他の自治体からの派遣職員らと公私共に交流があったことは、多忙な復興支援業務をこなす上での心の支えとなったと同時にかけがえのない時間を過ごすことができ非常に良かった。
24	派遣を機に、現地の職員の方と派遣終了後も継続して交流する機会が生まれた。
25	仕事の内容が初めてのことでばかりで得るものが多かった。また、地域の方たちともスポーツを通じて交流でき、違う環境や文化を肌で感じて持ち帰ることができた。
26	業務の経験取得に加え、地域での経験も得ることができました。
27	震災復興事業という国家プロジェクトの一員となれたことや派遣先や他の自治体職員を始めとする、交流ができ自分の人生にとって大きな収穫となった。 また、漁港の町であるので、新鮮な魚介類を堪能できたのは、楽しみでもあった。
28	UR都市機構、全国からの派遣職員は非常に能力の高い人が多く、これまで自分自身を反省し、人的つながりは私の財産になった。
29	復興の協力として、いろんなところに出かけ、お金を使った。
30	その後、地元の区画整理事業の工事設計や施工監理を担当し無事完成することができた。
31	個別の経験というより、人生においていい経験ができたと感じ、このような経験ができたことを派遣元や派遣先に対して感謝している。
32	URIによるCM方式については、経験がない仕組みであった。

自由意見	
33	業務での町の職員、派遣職員の協力をいただいた。生活面でも多同様にサポートをいただいた。また、私生活面でも町の方のサポートを多分にいただいた。
34	経験したすべてのこと。
35	生まれて初めて一人暮らしを経験したことと共に、北海道から沖縄県まで多くの派遣職員や地元職員等と交流することが出来、仕事は無論のこと充実した派遣期間を過ごすことができた。
36	ある意味、自己の人生経験にプラスとなった。
37	生まれて初めての単身赴任経験でした。

(6)復興事業に携わった際の課題や不安等がありましたらご自由にご記載ください

自由意見	
1	派遣当時腰痛に悩んでいましたが、派遣先にあまり良い病院がなかったため、その点が不安でした(毎月帰庁時にかかりつけの病院に通っていました)。個人的な事情で、1年を超えての派遣は協力しかねると思っていたのですが、自治体間の都合で無理矢理派遣期間が延長されないかという点を気にしておりました。派遣元の自治体(特に人事関係部署)は、「派遣職員を選んで行かせたら終わり」と思っているような印象がありました。派遣されている職員は健康面や帰任時期など不安を抱えていることが多いと思いますが、むしろ派遣先の自治体の方が健康相談や研修を行うなど細やかな気遣いをしてくださりありがたかったです。
2	今までの業務経験が絶対正しいという押し付けを被災自治体の職員にするのではなく、今まで培ったテクニックを活用してもらうという気持ちで接すれば人間関係もうまくいくと思います。
3	派遣職員は、生活環境の急変、業務量増のため、2~3年程度で体調不良となることが多く、当初から生活面での支援は不可欠である。
4	はじめての一人暮らしで、生活ができるか当初は不安であったが、やればできた。
5	復興道路や橋、法面などの維持管理のノウハウが、現地職員にあるかが不安である。
6	派遣先の被災自治体は、区画整理や都市公園などの事業経験がない場合が多いため、区画整理事業とは、から始まり、苦労したが、聞く耳を持ち、新たな事業を取り入れて復興を進めようという組織としての姿勢の大切さを痛感した。最初の派遣先では、そういう意味で恵まれていた。その後の派遣先自治体では、聞く耳を持たない、応援職員から様々な面で吸収しようという姿勢が全くないケースもあり、本当の意味での復興の難しさを痛感している。
7	特に年配者とのコミュニケーションにおいて、方言や訛りに苦労した。
8	派遣前に十分な事前情報があれば、もっと適切な対応が、早く取れた案件が多数あったと思います。
9	県内の派遣先であったため、不安な点は特になし。復興事業の課題としては、交付金を活用して事業を進めているが、維持管理に要する費用や職員の増員まで考えられていないところ。
10	妻独り残しての単身赴任になったため、自分も妻も事故や病気になった時の不安があった。
11	地方自治とはいえ、発災後は物理的にも人材的にもキーマンとなるべき人を欠き、組織が機能不全に陥っているので先進自治体である近畿地方の自治体の皆さんには、より指導的立場で支援していただきたいと思います。
12	方言の聞き取り、国民性の違いへの不安があったが、杞憂であった。東北人っぽくない性格だとは言われたが。
13	生活環境が大きく異なったため、業務を行いながら生活スタイルを合わせていくこと。
14	被災者の気持ちや、考え方、置かれている状況等が十分に理解して、業務を遂行できていないことが課題。
15	復興庁及び県の職員の当該事業への理解が非協力的で当初の概算要求からの事業計画変更がなかなか理解をえられなかった。
16	特にありませんが、初めて一人暮らし(仮設住宅)をしたことくらいでしょうか。
17	自分の自治体からの公用車の提供がなかったため、自分の車を自己負担で持って行った。派遣先の職場の当初の直近の上司(派遣職員)がとても曲者で、業務を行う上で障害であった。
18	自分が所属していた部署は派遣先の上司が業務だけでなく普段の生活等についてもとても面倒をみてくれたので、とても働きやすく、それもあって派遣延長をする者が多かったが、他の部署はそういうことがあまりなかったようで、派遣されていた者はとても大変そうだった。どこでもそうだが、上司次第なのかなと思います。
19	派遣元からの唯一の県外出向であるため、人事担当も経験がなく、県を通さない形の出向の形をとったことにより派遣後のフォローが全くないまま(定時帰町報告やメンタル面でのフォロー)こちらの精神的負担が増大してしまい、派遣元への不信感がうまれた。
20	・新しい職場での人間関係の構築 ・新しい職場での業務の進め方への対応 ・積極的な業務遂行
21	初めての一人暮らしでも自炊することができ、余暇には魚釣りを楽しみ、たくさんの釣り仲間もできました。また、地元の祭りやイベントに参加し、第二の故郷になりました。
22	土地区画整理事業に関する業務の進め方や考え方の違いが派遣元の地域間であり、困惑した事があった。
23	プロパー職員は、応援職員が1年または2年ごとに代わり、同じ説明を何度もしているのか、1つの事を詳しく、また何度も聞けないような感じである。

自由意見	
24	令和2年度特有の現象だったのかもしれませんが、新型コロナの感染拡大防止に伴う行動制限に辛いものがありました。
25	生活できるように住まいの確保があった事は、引っ越し等の移動が最小限にとどまり良かったと思います。
26	宅地引渡し後の土地利活用について
27	計画段階より急激に減少した人口
28	赴く前は不安な面もあったが、今となっては良い経験
29	派遣元の自治体からの支援が不足していたため、そのあたりもしっかりフォローしてもらいたい。
30	派遣先では復興事業専門の部署が作られており配属されたが、部署内外で事業に対する協力への温度差が大きく、そこを埋める組織体制が工夫されると良いと感じた。
31	復興事業による災害公営住宅建設及び防災集団移転に伴う宅地開発したことから、今後は高齢化や少子化による対策が必要となると思うので、対策活動を早い段階からすべきと考える。
32	業務経験のある部署へ配属されれば、更なる尽力が出来たと思う。 家庭持ちの派遣者に対しては、一時帰郷の回数を増やして欲しい。
33	コンサルタントの人材があまりよくなかった。 プライドがあるのか、能力がないのか、指示事項を期限までに提出しなかったり、指示とは違う事をやり続けたり。
34	対応する地権者の方々が被災されていることから、発言には気をつかいました。
35	言葉の壁(方言で話された場合に、理解が出来なかったケースがあった)。派遣元と違い、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科などの医療機関が少なく不便を感じた。
36	仕事に対する意欲が空回りすることもあったが、住民と良好な関係が築け、派遣されていた2年間で私の人生の宝物となった。
37	仕事は大変なのが当たり前ですので、コミュニケーション力の高い方が望ましいと思います。地方への1人派遣は有事の際は特に組織の中で孤立しやすくなるので、複数派遣が望ましいが、派遣先での業務精通者によるマネジメントや派遣元のメンタルケア等が必要だと感じました。
38	特にありません。
39	私の場合、自ら率先して派遣しましたが、私以外のほとんどの人が職員課等からすすめられて
40	派遣元の職場には、業務多忙の中、被災地支援に志願した自分を良く思わない職員もあり、被災地の実際に直面している自分の感覚とのズレに愕然としたことがあった。しかし、被災地のことはニュースでしか知らないのであれば当然のことかもしれないと思う。
41	・業務内容のレクチャー、引継ぎ ・派遣職員への職場環境への対応 ・文書等の取扱方法の違い ・地域特性を知らない ・土地勘がない ・職員の人間関係 ・派遣職員による住民や権利者への対応 ・地元職員の負担軽減 ・地元、派遣職員のメンタル ・配属先による業務量、負担の格差
42	特に高齢の方とコミュニケーション。
43	派遣先での休日における、個人的な移動手段の確保に苦慮しました。新地町では、柔軟な対応をしてくださりましたが、対応いただけない自治体もあると聞きました。
44	住環境、事業進捗の情報があまりなく派遣するまで心配があった
45	派遣職員と自治体職員の事業施行に関してのモチベーションの差は感じるがあった。
46	被災自治体から必要とされる業務に自分が対応できるか不安があった。(需要と供給のマッチング) 派遣元からのバックアップに不安があった。
47	復興事業のような公共事業が地元自治体で行われるのは、同様の災害時と考えるが、経験を蓄積し地元自治体へ活かすことが難しい。それは、通常業務の重要性、専門性がこれまで以上に高まっており、復興事前準備業務などを行う余裕がない。
48	派遣先では自身の知見で業務をおこなったが、設計業務では派遣先の課題の意識や方向性とあっていないことが後でわかった。
49	復興事業への派遣にあたっては、派遣元の後方支援はとても大事である。不安な面は、復興事業の実務を派遣職員だけで行っているため、被災自治体職員にノウハウが残らないのではないかとということである。
50	派遣元からは2人が1年ずらして2年ずつ復興区画整理課に派遣されており、区画整理業務だけでなく一般事務の処理方法等もスムーズに引継できたが、他都市は半年や1年で完全に入れ替わるので業務引継ぎがうまくできていなかったと思う。

自由意見	
51	他の自治体では、派遣職員が寂しいところの仮設住宅に居住するなど、生活環境面の不安があったと聞いている。派遣職員の中では、数名の自殺者も出ている。忙しい業務、異なる生活環境において、派遣職員のフォローが派遣元自治体には必要である。
52	全く関わったことのない人と接して短期間で業務を推進することの困難さ、方針決定・チームをまとめることなど責任の重さに精神的にきつい面が多分にありました。ただ、何とか順調に進んだことに救われました。
53	土地区画整理事業の業務経験がなくても、ある程度、一般の業務経験(10年程度)を積んでから派遣されるほうが望ましい。異なる環境で全く経験したことのない業務をすることは、肉体的に疲れるだけでなく精神的にも辛いものがある。
54	派遣された時は子どもが小学校低学年と小さく、派遣先に戻るときは泣いて嫌がられました。今となっては良い思い出かもしれませんが、帰省する旅費の支給回数が少なかった。所属自治体の問題ですが。
55	復興事業に携わる、市町職員、県職員、国職員の温度差があります。
56	派遣年数の確定を派遣時に必要と感じた。
57	当初は生活面での不安があったが、普通に生活できる環境にあったことから不安はすぐに解消された。ただ、寒い地域ならではの寒い時の水抜き等今までに経験のない作業が必要な賃貸だったのでびっくりした。
58	派遣元の自治体には、生活環境が一変する派遣者に対して、派遣先で孤立しないように、生活環境面の十分なサポートが必要。
59	派遣先のしきたりなど教える人材、時間がないため、当初の段階で戸惑う場面があった。自力で覚える必要があり、精神的にも苦労した。
60	公共事業が減少する中、復興に関する事業ノウハウ、スキルを蓄積しておく必要がある。事業のトータルコントロール出来る人材養成も不可欠である。
61	復興事業初期では、自殺者も出ていたとのこともあったが、非常に激務だった。また、自分自身の方言が通じず、標準語でしゃべろうと努めることが、自分自身ではなくなるような感覚を覚えたこともあった。派遣職員の健康管理を本人だけに任せることは危険を生じさせることもあると思う。
62	短期派遣の方の作業内容をはっきりと決めてほしい。
63	4の自由記入欄に記載したことは、月日が経つにつれ、悩みとなっていた。:被災地ならではの早急な決断を迫られたり、派遣先の考え方に馴染めないこともあったが、決定的に相容れないものでもなかった。経験は生きたと思う。
64	派遣先の業務の執行環境(パソコンのシステムなど)の違いは非常に不利だった。派遣元のシステムを使える環境や、自治体間での仕様の統一などは、災害への備えとしても有効かもしれないと感じている。それ以外の生活環境等は違って当たり前なので気にならなかった。
65	自治体職員との感覚の違い
66	出身自治体との住民の生活環境(業務環境を含む)の違いを理解、業務の具体計画を策定
67	派遣者に対する派遣元の評価(人事)が不透明
68	区画整理事業地60Ha内の造成工事に管理者が異なる工事が混在し、事業調整が難航することがあり、許認可に関しても占用等に苦労したことが思い出される。また、事業間調整をするにあたって、予算の確保についても課題があると感じた(基本上級官庁が確保するべきである、市町に求めるべきではないと思う)
69	事業が多く、対応できる人数がいなかった。町民や町、県に事業の必要性について十分な説明ができたか。事業により設置した施設や生活面でのケアなど、今後について町へのサポート、町民への説明が継続してくるのか。これらも大切に感じられます。
70	業務の進め方や技術的にわからない部分について聞ける人が少なく、自分で判断していくことも難しい中、はたして自分が派遣されて役に立てているのだろうか、迷惑をかけていないだろうかと不安になることがあった。
71	広域での大規模災害であったので、人が足りない。地元職員が少なく住民との懇談会などではそのことを指摘する住民もいた。
72	発災した次の平成24年度に派遣させて頂いたが、役場の混乱が収まっていなかったこともあり、着任するまで自分が行うべき復興事業の情報が皆無だったことや派遣職員のこれまでの経験と派遣先とのミスマッチがあったのではないかとされたこと。
73	余震の多さの驚きとともに、津波発生への日ごろの備えを経験した。
74	目先の復興だけでなく、将来を見据えた復興計画が必要だと感じました。
75	お年寄りの方言が理解しにくかった。

(7) 今後、別の地域での災害復興支援が必要な場合に参加したいですか		
選択肢	自由意見	
A 是非参加したい	1	今までの経験を活かすことができ、感謝されるにつながるなら、可能であれば何度でも参加したい。
	2	50歳で前職を辞し、復興支援の道に入ったため、復興をライフワークにしたいと考えている。
	3	自治体の土木技術者として、これまでの経験を活かしたい。 また、全国の他の自治体職員との交流により、互いに切磋琢磨できることを期待している。
	4	自分の生きている存在証明と感じられる。
	5	東日本大震災での災害復興支援の経験、それから令和元年東日本台風の被災時の経験があり、今現在も復旧のための業務に携わっているため、役に立てる場所があるなら役に立ちたいと考えています。
	6	体が動けるうちは、土地区画整理事業だけでなく、一般事務としても復興支援への参加をしたい。
	7	何かの災害があれば参加したい。
	8	阪神淡路被災自治体からの派遣職員は「阪神淡路では世話になったから他地区が被災したら恩返しをしたい」という意識をもっていった。派遣先プロパーも「自分の町が復興したら他地区の復興支援に必ず行きたい」と口々に言う。「助け合い」と言葉にすれば当たり前だが、こうした気持ちが復興の大きな力になるのだと思う。自分も状況が許せば是非参加したい。
	9	僅かな経験ではありますが、その経験を生かして参加したい。
	10	年齢的な制約もあり家族の理解も必要となるが、可能であればこれまでの経験を活かすことができればと思います。
B 条件等が許せば参加したい	1	その時の家庭環境や業務の状況次第ではありますが、自分の力が役に立つのであれば協力させていただきたいという気持ちもあります。
	2	自身も元派遣職員ですが、派遣いただいた自治体に恩返しに伺いたい。
	3	迅速な復興を実現するには、当初の方針、計画策定と最終段階での強制力の使用の判断である。そのため、当初、難航時の支援はできるとしています。
	4	日本はどこで被災するかわからない。支援を必要とする立場になるかもしれない。支援できるならば、微力ながら尽力したい。情けは人の為ならず、である。
	5	家族の理解が得られれば参加したい。
	6	年齢的に厳しいと思いますが、出身母体の市の後任の部長には、声をかけたいと思います。現在の市長も、自分が部長であったせいか好意的に見てくれています。また、自分の後任の部長が副市長に就任したので、そこからも働きかけたいと思います。
	7	東日本大震災の復興支援から戻った後に熊本県益城町へ応援に行った。
	8	前回の心残りを祓うためにも、自分勝手な考えではありますがしっかりと貢献して終わりたいと思っています。
	9	組織の重要ポストや業務的に継続性が必要な時期に在籍している場合は、お断りすることになる。
	10	大災害が無いことを祈るが、自分で役立てることがあるならまた貢献したい。
	11	その時の自分自身の健康状況等に問題がなく、家族の理解を得ることができれば、ぜひ参加したい。
	12	復興土地区画整理事業
	13	自治体職員である限り、派遣を決めるのは派遣元自治体なので、希望したとしても自由にはいかないが、フリーであればいつでも参加する。
	14	職場の派遣形態が研修制度に組み込まれ、現職では管理職の派遣が困難になっている。
	15	もう年齢が年齢なので。
C それらの要現加請職すが場るあか	1	既に実務の最前線で役に立てる年齢は過ぎていると思うが、経験が活かせること、足手まといにならないこと、職場より適任判断などの条件が揃えば参加する。
	2	高年齢の分類に入り始めたことから、その時の健康状態や家族構成に応じて判断したい。
	3	妻と相談します。
	4	正直もうあんな苦しみは経験したくないというような思いもある。当時は39だったが現在47であり、派遣先の要望からいっても若い人材のほうが扱いやすいと思う。
D できれば参加したくない		気持ち的には参加したいが、子どもがまだ小さいため参加できる家庭状況ではない。
E 現時点では未定・不明	1	能力と精神力に見合った事業程度しか無理でしょう。しかし、現地に行くとアクセルだけでブレーキがなくなります。
	2	毎年のように大災害に見舞われ、今後も支援が必要な災害が起こることが予想される中、場合によっては参加すべきと思います。
	3	やりがいのある仕事ではありますが、派遣当時ほどの情熱があるかどうか自分自身疑問に思うので、何ともわからないといったところです。

(8) 今後、新たに災害復興支援に行かれる後進の方々に対して、アドバイスがあればご記入下さい

自由意見	
1	業務に関しては不安な点が多いかもしれませんが、業務外の時間で派遣先の地域行事や住民の方々との交流するのは、とても楽しい思い出になると思います。
2	健康管理が一番大切だと思います。 派遣先は、身近に病院がなくぎっくり腰、インフルエンザなどの通院に苦労したり、まわりの職員に迷惑をかけたり、食事も自炊せず弁当生活だったためか、帰任後、健康診断でひかかりました。
3	いつ自分の街が多くの方々に助けをいただかなければならない状況になるかもしれません。 派遣先であなたが誠心誠意頑張れば、いつか自分の街にかえってきます。
4	区画整理の業務経験無く、区画整理事業に取り組みましたが、必要なのは区画整理のテクニックよりも、被災地への想いです。
5	復興支援のまちづくりは、「修復型のまちづくり」か「大規模改変型のまちづくり」かまちづくりの方針を明確に決定し進めることが重要である。(100年後のまちのあり方)そのための住民協議は不可欠である。
6	腹を据えて立ち向かってください。
7	やりがいがある仕事になります。ぜひ一度経験を。
8	他市町村等の考え方など、新たな発見ができ素晴らしい経験になるかと思っています。
9	復興支援は、被災者ありきですから、業務遂行にあたり難しさはありますが、それを差し引いても、新たな出会い、新たな暮らし、人生を豊かにするプラス要素が多くあり、挑戦してみる価値は大いにあると思います。ただし、家族の協力と健康が大前提です。
10	支援が押し付けにならないように、地元住民との交流を大切にしてほしい。
11	様々な人と交渉、交流が必要なので、コミュニケーション能力が必要
12	他の自治体で職務を行うことに不安を感じますが、受入れ側としては派遣してもらえただけで感謝しています。 派遣先では異なる自治体の職員が知恵を出し合うので、様々な視点で物事を考えることができます。 土木技術者としての経験を、是非被災地で活かしてください。
13	若い時に積極的に経験を積んでください。
14	新しい経験は今後の業務に必ず役立つものになると信じているので、災害復興支援を通じて色々な経験をしてもらいたい。
15	支援する側は、もっと主体性を持った方が良いのでは、と思います。
16	現業務への責務等のウェイトや家族等の不安がなければ行かない理由がない。行けば何とかなる。現地の人からしたら本音ではプロフェッショナルを希望しているが、かじっているだけでも頭数になる。
17	被災者は、何かにつけ不安感を抱いているので、他都市からの応援職員は、状況に応じた言葉遣い、行動等に十分配慮が必要。例：高級な衣服やアクセサリ等は着用しない。「行方不明」などの言葉は業務上必要でない場合はできるだけ使用しない。
18	町・県のプライドを捨てて取り組んでほしい。
19	無理はしないこと。また、地域の慣習や意識など違いや職場の違いによる違いなど、周囲との情報交換や交流は大事と思う。
20	現地に行くまでは不安もあると思いますが、同じ気持ちの仲間ばかりですので、行ってしまえば何とかなります。大丈夫です。
21	業務時間外も楽しみましょう。私はもともとやっていたバドミントンの地元スポーツサークルに参加していました。
22	生活環境の違いに戸惑うことも多く、業務面も大変なことも多かったが、絶対に今後の自分の財産になるので、自ら希望してでも行った方が良いと思います。
23	派遣先で求められるプレッシャーで精神的に追い詰められないように注意してください。オンオフの切れ替えを上手にお願い致します。
24	体調管理に気をつけてほしい。
25	まずは派遣元からの条件をしっかりと確認してフォロー体制の確認をしてください。 自分の身体を守るの自分ですが、派遣元からのフォローがしっかりとっているかどうかで自殺の可能性が変化します。 派遣先ではしっかり出向している仲間とコミュニケーションをとって孤立しないようにしてください。それとは別に仕事仲間とのコミュニケーションも大切です。その際地域での感覚の違いがあることを心に留めておく必要があります。 業務においては分からないことがたくさんありますので、日々学びつつの勤務であると割りきって頑張ることが大切です。
26	1人の力より多くの力を結集したほうが成果があがると思います。はじめは見知らぬ者どおしですが、同じ志を持つ仲間を認め合い、協力し合いながら進めることが大事なと思います。
27	「燃え尽き」は自分では気付かないので、周囲の冷静な上司や同僚、アドバイザー等でブレーキを調整して上げられる環境が必要だと思います。

自由意見	
28	派遣先に慣れ親しむことです。 しかし、親しい中にも礼儀あり、初心を忘れずに頑張ってください。
29	被災した方々は、早期の復興を求めていますので、そのプレッシャーたるものは相当なものでした。 業務も自分一人では何が出来るものではないので、派遣先で「ワン・チーム」で行動して欲しいと思います。
30	特に心配することは何もないと思う。
31	自分の知識、経験はオールマイティではなく、基本的なものであることを認識して業務を行う事が必要です。
32	慣れない地での生活はいろいろと問題が生じますし、住まいの近くに生活利便施設が立地していないと日々の暮らしが大変です。 そのような中においても、職務に支障を来すことのないよう、健康管理には十分気を付ける必要があります。
33	人間関係が全く別のものになるので、コミュニケーションが重要である。
34	地元の職員のサポートに回れる。謙虚な気持ちが必要と思う。
35	①整備後の実需を意識した計画策定の重要性を再認識する。 ②柔軟な計画変更を検討する。
36	復興先には地域の特性があるのでまずはそれを理解して、、自らの経験をどう活かせるか考える方が職場環境がより良く図れると思われました。
37	何物にも代えがたい経験ができる。積極的に手を挙げてほしいと思っている。
38	派遣先の仲間と仲良くなることが必要です。
39	必ず貴重な経験になると思います。
40	知識や人脈などを広めていける機会だと思うので、災害復興支援に参加すべきかと思っています。
41	派遣先の自治体のやり方を尊重して、サポート側に徹する事 派遣元でのやり方をゴリ押ししない事 口だけではなく、行動する事
42	体調管理をしっかり行い、病気にならないよう注意してほしい。
43	気負うことなく、住民の気持ちを大切にして業務に当たって欲しい。
44	災害発生時は国もケースの蓄積や知見不足から制度矛盾等、被災者へ不利益な状況となり合意形成に支障をきたす場面も出ますが、あきらめずきちんと協議し、是正していくことを常に心に持っていたほうが良いと思います。
45	迷わず、まずは、実行
46	支援に行きたい気持ちは多くの人が持っていますが、実際に行く決断を下すには勇気や周りの支えが必要です。迷う事もあると思いますが迷うなら行ったほうが良いと思います。
47	派遣には、不安もあると思いますが、自分の知識、経験に自信を持っていれば、大丈夫です。
48	復興の助けになりたいという気持ちがあれば思い切って行くべきだと思います。自分たちが助ける気持ちで来てくれて一生懸命取り組んでいる姿は、被災地の人たちに伝わります。必ず受け入れられて、技術者としてもやりがいのある得難い経験ができると思います。
49	災害復興は、復興合戦のように復興事業の取材、住民等の対応で日中の業務の進捗が遅れ、被災者やマスコミ・新聞等から、自治体非難の結果ありきのような「復興がまだ進まない、全然進まない、遅い」などが、連日のように流される。そんななかでもなんとか力になりたいという意識をもって派遣職員として派遣先自治体の復興事業の支援にあたるとしています。復興事業でもできることとできないことがあることを理解し、心身を大切に無理をしすぎないことだと思います。
50	短期間でも積極的に支援に参加していただきたい。
51	長期派遣者を優遇すべき
52	業務遂行は大事だが、まずはそこでの生活に慣れることを優先することが大事。
53	いろんな不安があると思うがまず第一歩を 飛び込んでいくこと
54	多くの業務を経験することで支援の幅が広がります。
55	日本中で災害が起こっていていつ自分のいる自治体が被災してもおかしくない状況と思われる。 何事も経験といってよいが難しいが、経験されることはとても良いことと思われる。
56	地元自治体の狭い業務範囲で仕事をしていると、他の自治体での業務へ対応できなくなるため、根拠整理をした上で通常業務を行うなど、環境に関係なく幅広く対応できる職員である必要があると考えます。
57	ぜひ災害復興支援の話があれば、新しい生活をする、知らない地域へ行くこと、自分が復興支援に役になるのか、不安を感じると思いますが、条件が許せば、是非、復興支援に行っていただきたい。
58	生活面や、新たな業務への挑戦等、不安要素もあると思うが、ぜひとも支援派遣者に手をあげて欲しい。人生の宝になるから。

自由意見	
59	結果を求められる仕事なので相当なプレッシャーを感じてと思いますが、自分にできることを精一杯やるということだけを考えて業務をこなすことが一番だと思います。
60	震災復興事業はこれまで経験したことがない業務が多く、何度もプレッシャーを感じることがあると思うが、背伸びをせずに自分のできる範囲のことを着実にこなすことが最も重要であると感じた。そして、「自分のできることは何でも進んでやる」といった気持ちで取り組んできたことで、周りから一定の評価を得ることができたと感じた。「誰も経験したことがないことをやっている。できなくて当たり前だ」と開き直って考えることができてからはかなり気持ちが楽になった。
61	被災地での仕事だからと萎縮する事なく、休日には地域を回り、その土地の文化や風土を感じ、人々との交流を深めて欲しい。
62	被災地への派遣ではどうしても気分が落ち込みがちになるが、なるべく現地での楽しみを見つけることが大事ではないかと思う。
63	生活環境について、地域の人と趣味等で積極的に交流することで、派遣生活を楽しく過ごせるのではないのでしょうか。
64	被災地の現場は実際に眼で見てみないとその悲惨さが伝わらない。地元の方とスポーツ等仕事以外でもいいので早くなじみ気軽にいろいろな話ができるような関係になれるよう努力し、被災者と一体となって復興計画を進めていければ、より地元が望む町の形が早期に出来上がり、結果、計画が速く完成した分だけ復興も早期に完了する。
65	初めての業務で、現場はバタバタという状況かもしれませんが、私の場合は他の派遣自治体の方からノウハウを教えて貰ったり、また私が教えたりと、身になることが沢山ありました。業務の幅が広がったため、所属自治体に戻ってからも、役に立っていることが多いです。また、当時一緒に仕事をした他自治体の方を伝って、所属自治体の業務の相談をしたりと、お付き合いが続いている方もいます。このような良い面もあると思います。可能なら、所属自治体の業務をある程度経験した方が参加されるのが良いかと思います。
66	頑張り過ぎないこと。 地元住民の不安、苛立ちなど、地元自治体職員よりも派遣職員の方が寄り添いやすい部分がある。
67	復興支援について、「支援」ではなく、自分自身の「知識の習得と経験」を得るものとして、参加して頂きたいと思います。
68	手続きのシステム、説明会、多少の違いはありますが、基本的には普段の業務と変わらないので、地元の職員に教えてもらいながら業務を進めていくと手戻りが少なくなります。 郷に入っては郷に従えで、生活はその地域になじむことも必要で、挨拶などは地元の方と同じ言葉を使うようにしました。(こんばんは一おぼんでございます)
69	自分が出来ることをすればいいと思います。 復興支援に行ったからには、仕事だけでなく、派遣先の近くの観光地や食べ物を十分に楽しめばいいと思います。
70	健康第一、無事これ名馬だと思う。自身が健康であってこそ復興事業に携わることができる。体調不良を感じたら、派遣元に戻ってもいい。無理しすぎないでほしい。
71	若い人ほど行った方が良い。
72	公平公正を保ちながら被災者に寄り添うのは生半可な気持ちではできないと思うが、私たち一人ひとりの力は「微力」ではあるが、「無力」ではない。みんなが力を合わせれば大きな力になるので、積極的に携わってほしい。
73	広い視野を持って業務に携わること。
74	頑張りすぎないこと。自分を責めないこと。
75	被災地での業務・生活は常に非常事態下で行われることになり、短期集中的に膨大な業務を行うこととなるのがほとんどであると思います。メンタル的・体力的に十分に注意を払いつつ、たまにはリフレッシュもしつつ、被災した地域・人々のために頑張っていただきたい。
76	家族を大切に、無理をしない事です。
77	事業が多岐にわたっている。時間が限られている。担当者が少ない。業務が多い。出来上がった施設などの将来の説明もできるように。たくさんの方との対話や協力が必要となる。丁寧な対応が必要となる。
78	自身の自治体のやり方にとらわれることなく、柔軟な対応が必要。 使命感があるとおもいますが、しっかりと休暇をとることが大事です。
79	体調や生活面など様々な課題は多いと思いますが、人生において得られる事柄はそれ以上にありますので、是非積極的な参加方をお願い致します。
80	復興への強い思いがあれば、必ず復興できるものと思います。
81	災害復興支援では、「しんどい」「疲れた」の様なことは言いにくい状況にあるため、健全な心身が必要だと思います。また、派遣元の職場も派遣者への思いやり、気遣いが大切だと思います。
82	周りの方々は人的・物的にも大きな被害に遭われたということを忘れない。
83	是非とも経験していただきたい。

(9)ご自身が担当した業務において、例えば、事業の立上げ、事業手続き、合意形成、工事進捗、市街化促進、立地促進等の工夫によって、成果があった事柄があれば、お教えてください

自由意見	
1	(あまり大きな事柄を挙げられず恐縮ですが、)道路部局、ごみ収集部局、警察・消防等の機関と調整を行い、工事が円滑に進む様に手配しました。
2	担当した地区において、地域住民とのひざを突き合わせた話し合いによるまちづくりによって、都市景観大賞「景観まちづくり活動・教育部門」大賞を受賞することが出来た。
3	今回の復興事業では、事業費が高騰し、当初予算額の3倍程度となり、事業費の確保、事業期間の短縮など、様々な手段を講じた。 中盤から様々な法制度(特別区域法)が準備され、活用し、時間短縮を図った。(都市計画手続きなど)
4	権利者との交渉をプロパーの職員なしで行うこともひとつの方法ではないかと思う。
5	被災自治体が区画整理の経験なし、当然、地権者の皆様は聞いたこともない状態から始まる訳ですから、合意形成を図り、事業進捗を図るため、地権者全員で協議会を立ち上げることを仕掛けました。設立後は、とにかくマメに説明会を図り開催し、初回から最終回まで、すべて私が説明し、その上で、こまめに地権者訪問を繰り返し、地権者の皆様から信頼を得ることが、合意形成、ひいては事業促進に繋がったと思います。 また、従前の向こう三軒両隣の換地設計は、防災集団移転促進事業との兼ね合いから不可能であるために、換地設計にも工夫を凝らしました。 そして、使用収益開始前に、景観勉強会を開催し、区画整理先進地の視察を行い、成功例や失敗例を学び、孫子の代いまで、愛着と誇りの持てる景観を形成するために、まちづくりルールを策定しました。
6	まちづくり委員会が立ち上がり、地元の意見を聴く場が説明会以外にもあり、助かった。
7	方針や考え方の違いは必ずあるし、業務に困難はつきものであるもので、粘り強く協議を進めることが必要。また、所詮人と人の交渉になるので、いかにコミュニケーションを取るかが大事だと思う。
8	担当した補償業務において、特に工夫は無し。
9	細かい申請書の様式や、地区計画策定を建築制限条例無しに対応せざるを得なかった場面では、派遣元在職中の人脈を活用して、建築制限条例のない東京都内唯一の自治体から多くの協力を得られて遂行出来ました。自己満足ですが印象深い出来事でした。
10	土地引き渡しの図面に、将来的な電線地中化の引き込み位置を記入し、暫定柱からの切り替えをスムーズにした。
11	被災地からの移転促進することで、新しい生活をスタートさせる手助けをすることができた。
12	地方は地縁・血縁が強いので利用しない手はない。
13	道路の隅切りの関係で換地後の土地の形状が当初に設計したものでは地権者の合意が得られなかったことがあり、どうするか悩んでいたが、開発許可事務に従事していた時に地元ではこういうやり方で警察との協議が整ったことをアドバイスして、警察協議をやり直し、設計を少しだけ見直すことで、地権者の合意が得られたということがあった。
14	復興庁の復興交付金のヒアリング対応の結果交付金の内示が行われた。
15	途中からの派遣なので事業概要はほぼ出来上がっており、事業手続き、合意形成のため毎日会議や打合せ、説明会漬けの日々でした。復興事業はやはりスピードが重要だと感じました。
16	被災市街地復興土地区画整理事業の立上げを担当していて、想定の実業計画を作成して事業調査費に充てる復興交付金を獲得したことが成果であった。総事業費を下げるために造成に必要な土砂を同じ市内の他地区から搬入したり、災害復旧事業の残土を積極的に受け入れた。
17	事業は住民を地権者の協力が不可欠であるので、制約はあるものの出来る限り、意見や意向を聞くこと、事業を進めるにあたっての近道(完成)だと思われました。
18	換地不満で移転が難航していた工場の移転の道筋をつけることができた。
19	埋蔵文化財調査を早期に実施したので事業進捗がはかどった。
20	派遣元のバックアップが進捗に貢献できた。
21	仮換地における全地権者への個別ヒアリングを行い合意をまとめることが出来た。埋設物の工事設計では予算制約の中で沿岸特有の地質条件に対応した工法選定を行い、無理矢理でもとり急ぎ工事に着手する流れが出来た。
22	以前土地区画整理事業で整備したまちが被災し、復興を土地区画整理事業となり、減歩合意対策として複数復興事業区域内取入れによる減歩緩和措置(減歩率ひとけた台に)を講じ、合意形成に努めた。
23	住民との対話を重視したいと思っていたが、被災された住民がどこに住んでいるか把握できず、特に大きな成果はなかった。
24	被災市街地復興土地区画整理事業に都市計画決定と事業認可、また事業認可前に行う減歩緩和のための緊急防災空地整備事業による用地買収を1年間で完了した。
25	特にありません。

自由意見	
26	工程調整を頻繁に行うことで単純なエラーを無くして、手戻りのないように工事進捗を図る事ができた。
27	13の漁業集落で高台団地の計画策定を行ったが、いくつかの地区で住民の意見が割れて難航した。二段階造成により「スピード重視地区」と「コミュニティ重視地区」に住民を振り分けるなど、個々の集落の状況に沿った計画を何度も練って提案することで合意形成ができた。
28	土地区画整理事業を行うグループには配属されたが、土地区画整理事業の具体的な業務にはかかわらなかった。土地区画整理事業は、集団移転先の住宅団地の整備として先行整備として進められていた。その集団移転先の住宅団地の候補地、規模検討でかかわったぐらいです。
29	事業終盤での直接施行も検討している旨の被補償者への交渉。
30	復興事業の工程管理において、複雑多岐な業者が交錯するため、通常の図面説明だけでなく、わかりよい説明資料の作成により円滑な工程管理が可能となった。専門性が高い職員が派遣されていることが多いため、説明がわかりよいだけで周囲からフォローしてもらえます。
31	まちづくり協議会の立ち上げ・運用
32	震災後の新制度、津波復興拠点整備事業の都市計画を被災地で最初に決定することができたこと等。
33	土地所有者との売買契約を短期間にとりまとめないといけなかった状況で集団調印という方法で大多数地権者との売買契約を締結できたのですが、集団調印の計画立案をし、実行できたことはとても良かったと思います。
34	合意形成において、区画整理を重ね図などで説明しても理解できない老人に、地元の大学の実習で無償で作成してもらった模型で説明した所理解出来る様になった。大学側も実習で学生が社会貢献でき、ウィンウィンであった。
35	都市計画に係る震災復興土地区画整理事業区域、地区計画、用途地域の変更及び都市計画マスタープランの改定
36	派遣先は地籍調査が町全体確定していた特殊な町であった。そのことが現地での再度境界立会いをせずに買収等できる特殊性があり、土地コンサルタント業者を震災直後から早期に決めて雇ったことが用地買収・高台移転候補地等すべてにおいて有利に働いた。
37	嵩上げ盛土による既存土留め擁壁等の対応について、県廃棄物対策課と協議を重ねて、復興事業に限ってはやむを得ないとのことで申請の許可を頂きました。
38	短期間で多くの地区について事業化する必要があり、様々な地区の担当ができた。
39	ごちゃまぜの中で、走りながら考えるような状態で仕事をしていた。派遣先の復興整備課長が当時、県からの出向で県との協議で、パイプ役を果たしてもらい県との協議はスムーズに進んだ面もあった。
40	関与してない
41	区画整理事業のアイデンティティというか、なぜこの事業を選択するのかといった本質的な部分を考えて取り組んでいたの、それが派遣先にも伝わってれば良いと思っていた。
42	企業誘致など市街化促進に成果があったと考えている。
43	被災した方々は、発災後、方々へ避難しておられ事業等の説明一つとっても、郵送か訪問か悩むところでしたが、遠方でも極力訪問し、対面での説明を行うことで早期の合意形成へつなげられたこともありました。泥臭いことかもしれませんが。
44	関係行政庁との調整
45	震災関連での区画整理地区は、住民がすでに決まっている場合が多く、住む方々との協議調整が重要だと思います。どんな街にしたいのか等、宅地ができる前から話し合いを多く持つことで、完成後のコミュニティ形成に上手く繋がると感じました。
46	津波被災地においては土地境界が曖昧だったり、地権者の死亡や転居等で立ち合い測量が出来ず、土地面積の確定作業に多大な時間を要することが懸念されたことから、防集事業等において、立ち合い測量を省略する案分方式による手法を採用し、用地取得作業の迅速化を図った。
47	ワークショップにより、元生活していた方々の意見を最大限聞くことが出来た。

(10) 今後、発生する災害復興事業において、事業を推進するための提案等があれば、お教えください。

ご自身が担当された業務に限らず、例えば、「〇〇の仕組みや〇〇の制度があれば、事業(手続き、合意形成等)を早く進めることができた。」という内容があれば、お教えください。

自由意見	
1	私が直接携わったわけではないですが、一人の難航地権者のために業務が増えている様子を目にしました。その相手方も被災者ではありますが、一人のために復興が進まないのは市全体で見ても損失が大きいと感じます。(復興の遅れは住宅再建の遅れにつながり、結果として避難した人がいつまで経っても戻れないことから人口減少に結びつきます) 場合によっては訴訟ということにもなると思いますので、法律面でのバックアップができる制度があれば、と考えます。
2	防集事業(任意)と災害危険区域(都決)の兼ね合いがもっと整理されたような制度が確立されれば事業の進展はもっと早かったと思料される。
3	1. 今回追加整備された「特別区域法」などのマニュアル作成など、行政職員に法制度を理解させることが重要である。 2. 災害の程度に応じた「復興計画」を事前整備し、住民合意を図っておくことが重要である。 3. このようなことを通じて、日頃から行政職員の育成を図ることが最も重要である。
4	市役所単位でのレベルでは正直限界があると思います。国であったり、県であったりがもっと協力体制をしかないと終わらないと思いました。
5	合意形成については、前述のとおりです。某被災地では、過大な計画を立てたため、避難生活を送っていた被災者が戻らない、または、戻れない状況になっている。これでは、誰のための復興事業なのか、本末転倒である。まずは、何時までなら待てるのかを念頭に、事業計画を策定し、決定後はみんなで丸となって自宅再建に向けて頑張る雰囲気醸成が必要だと思います。
6	墓地以外の土地と同様に、墓地も相続、登記を行うようにしてほしい。
7	今回の震災で様々な事業が進み、完了しているので、それを継承することが必要なのではないかな。
8	特に無し。
9	支援する側が、主体性を持った方が良いと思います。
10	住民の協力。賛成派からのPR、反対派への説得(将来の賛成派への種まき)。説明会の頻度を上げる。広報に期間を空けない。
11	前任者との連絡が密にとれるとは限らないため、業務をラップして行える期間があるとよい。
12	現在災害復興事業がどこでおこなわれ、経験した職員が必要としている自治体等が非常に分かりにくい。そこで、震災復興経験者の「即応災害応援派遣希望者データベース」を作成し、災害が発生した場合、災害派遣希望自治体の募集情報等をデータベース登録者に提供し、募集、応募を速やかに行えるような仕組みを構築 予備自衛官のような体制。
13	人口減少が見込まれる地域では、照応の原則をある程度緩和し、生活再建に必要な場所を集約して優先的に施工する場所と後回しする場所を分けることで工期の短縮ができるのではなかったのかと感じた
14	緊急の場合は手続きの簡素化をしてほしい。 通常の手続きでは事業認可まで相当の期間を要する。
15	補助金の査定を後ろで見ていて思ったが、区画整理事業なら区画整理事業、道路事業なら道路事業を専門でやっている査定官に査定してもらいたいと感じた。区画整理事業がどういうものか、換地がどういうものかから説明する必要があるようだったのでちょっと驚きました。
16	未相続地の手続きに時間を要していたので、未相続地の処理がスムーズに出来る特例などがあればと思いました。
17	一般の区画整理事業も今はコンパクトシティにシフトしています。復興事業も将来を考えると被災前より面積縮小すれば早期引渡しも可能ではないでしょうか。 派遣先の復興事業もコンパクトに納めたのが早期復興のポイントだったと思います。
18	人員不足への対応の職員募集状況が分かりにくい。 (復興庁HPでも掲載される場合があるが、一般に情報が届いていない)
19	土地区画整理事業以外でも同様かと思いますが、地区内には、未相続の宅地が多く存在したので、土地区画整理法など、これらに関して迅速に対応できるような方法があれば事業の加速化につながったと思います。
20	平成24年度から2年間派遣されていたが、派遣先の自治体は、派遣元の自治体の意向に沿った配属をするため、派遣の決定が遅かった当市は第1希望の復興業務ではなく災害復旧業務に配属された。ところが後に区画整理経験者は私しかいないことが分かり、翌年度から異動となり被災市街地復興土地区画整理事業を担当することとなった。区画整理はある程度経験が必要であるため、自治体間のマッチングだけでなく区画整理専門のマッチングが必要なのではないかと感じている。

自由意見	
21	未相続の登記を役所の権限で、登記が進めれば、円滑に事業が行える。
22	事業は住民を地権者の協力が不可欠であるので、制約はあるものの出来る限り、意見や意向を聞くこと、事業を進めるにあたっての近道(完成)だと思われました。
23	地権者の住所が変更されている場合、新たな住所へ通知文等を直接送ることができなかったため(本人からのアナウンス無し送ったことでのトラブルを避けるため)、そこを解消できる制度があれば良いと思った。
24	現コロナ禍でも同様に、災害時の非常事態、緊急事態下における特例や新制度の迅速な確立を期待したい。
25	東日本大震災は特に沿岸部は津波災害で土地利用ができない状況となり、仮設住宅に公共施設用地(学校やグラウンド等)で対応し、施設再開使用に影響が出ていた。 被災者仮設住宅設置は必須であるため、建設用地の事前整理が必要である。そのためには、用地提供協力者などをアンケート等調査によるリスト化などが有効かと思います。
26	有事における速やかな事業進展が必要ことから、所在不明者・反対者等の権利に対する強制権の発動権限等の整備。
27	あれだけの災害からたった10年で事業が収束に向かっている。御の字である。
28	がけ地の法的手続きについて、国交省及び岩手県と進めていたが、補助事業で建設したものを盛土により埋設するための許可に時間を要し、盛土に遅れが生じる状況であった。 災害復興における、手続きの省略、簡素化ができれば、もう少し早く事業を進めることができたのではないかと思う。
29	仮換地前に本格的な工事着手ができれば完成期日ももっと早まると思う。
30	各自治体の復興整備計画の策定は国の主導により迅速に行われたが、その後の被災市街地復興推進地域や災害危険区域の指定は、住民の合意形成が一定程度必要なため時間がかかったため、被災市街地復興土地区画整理事業はこれらに影響されるため、これらの説明会が何度も開催され被災者はその都度会場に赴き負担を強いられました。 派遣先ではその後計画調整室を設けて各事業の進捗を包括管理し、効率的に執行できました。
31	これまでは予算の確保とか制度の拡充などだったが、これから人材育成だと思う。 特に若年層への技術の継承が大切だと思います。
32	宅地が整備されても未利用地として残ってしまう土地が見受けられるため、土地利用にかかるマッチングの場を早期に設ける必要があると思われる。
33	例えば高台団地造成候補地が保安林だった時に「大臣認可に半年かかります」との回答により候補地の変更を余儀なくされたことがあり、被災地の実情と国・県の対応に温度差を感じた。復興特区法の拡充と浸透により改善を図ってほしい。※当時のことであり、既に対応されているかもしれません。
34	住まいの再建を強く進めて、土地区画整理事業、集団移転、災害公営住宅建設を主に進めていたが、働く先、住む場所、財産などのしがらみがなくなれば、収入が得られる働ける場所に近いところに引っ越しして住むのではないかとと思うと仮住まいができるようになれば、働く場所の早期再建、早期収入をえられるよう強く支援するべきではないかと思いました。
35	長期派遣者の優遇措置。
36	精算金が少額の場合や道路敷きの対象者など施行者が処分出来る規定があると事務が整理できる。
37	自治体が柔軟に活用できる制度
38	復興計画の策定には携わっていないが、前任者の話や策定経過を確認すると、派遣先自治体に復興計画を作成するノウハウ、計画策定の問題意識、職員配置がなく初動に遅れがあったと感じる。弊所の場合、復興事業はさまざまな反対意見があったと聞いているが、震災が起こる前に都市の課題について考えられ、地域と共有できていたことが、都市に必要なインフラ整備のための復興計画の策定が最短時間で行われたのではないかと考える。 復興事前準備の策定といえば難しいが、普段行っている通常業務を100%で行っていれば災害時の対応はスムーズと考える。逆に通常業務をおろそかにしていると初動で後れを取ると考える。
39	当初、土地区画整理事業区域内の被災者と防災集団移転促進事業区域内の被災者間で地区外へ移転する場合、補償内容に違いがあり、なかなか併用できなかった。その後、補正予算による復興基金が創設されたことで、被災者間の不公平感をなくすことができたが、被災当初から柔軟に運用できるように、メニューを考えてもらったら、もっと早く事業が進捗したと思われる。
40	地方自治体は高齢化による福祉関係予算の高額化で、財政逼迫している。復興にあつては、国の予算化、地方財政の支援措置を早期に明確化することが重要である。
41	複数の復興手法がある中で、特に初期段階においては権利者の方に正しく復興のイメージを伝えることが大事だと感じた。例えば事業のイメージを映像などのわかりやすい媒体で伝えられるものがあると、より進めやすくなる部分があるのではと感じる。
42	日本海溝・千島海溝沿岸地震が予測されており、事前復興の取組を進める必要があります。
43	地籍調査は非常に重要であることが証明された。日本各地で地籍調査を進めていくことが重要である。 また、被災者は通帳・印鑑・身分証明等が流されているため、マイナンバーが個人資産等に結びつく、土地の所有者調査等、大幅な時間短縮になるはずである。

自由意見	
44	復興事業の発注は各市町が行い、公金制度を活用して国や県が管理する施設の工事を行います。が、国や県を相手に調整が図れないので、復興庁職員が、全体の調整を図って頂きたい。
45	日数が立ってしまったので、いくつかあったと思うが失念してしまっています。
46	近年、多発する自然災害に対しての復興事業は国からの援助がないと出来ないため、災害復興交付金のいち早い交付ができるように、国の制度設計を考えてもらいたい。 漁業集落の跡地で、区画整理事業と同様の事業制度があれば、跡地利用ができやすくなると思います。
47	緊急時における早期事業認定の仕組み。特に災害の可能性が高い地区での地籍測量の早期実施。
48	派遣先とUR都市機構の関係が、不明確で悩みの種だった。派遣先ではURを通して工事、設計を行っており、URが動かなければ事業が動かない状態だった。 その後CMRの発注がなされ、役割分担がさらに複雑になったのではないかと考えられる。 派遣職員がほぼ1年で入れ替わる中、次第にUR主導で事業が進捗したのではないかとと思われる。
49	土地区画整理事業の場合、既存のシステムがよくできているので、改善するところはないと思います。 災害だからと言って公平公正が損なわれることはあってはならないので。
50	・所有者不存在土地に係る手続の簡略化 ・復興特例措置効力の関係機関への徹底（特に登記関係） ・復興交付金制度が複雑であり、大括り化
51	都市計画決定などの際の縦覧期間などの短縮
52	被災してから作成するものが沢山あったため、あらかじめ全国統一したものを事前に作成できるものは作っておくべき。
53	復興の事業を立ち上げ、進めていくうえで行政サイドで行う必要な法的・事務的な諸手続きにおいて、ヒアリング・申請・承認・許可など、対面・手渡しなどで行われていたため、諸官庁へ行き来するだけでも大変で一つ一つ時間を要していました。 ネット上での手続きやヒアリングなどがもっと組み込まれると、有事の際に時間短縮にもつながると思います。
54	復興事業の実務に係るコンサルタントの選定が非常に重要。後の事業進捗にも大きく影響すると思います。
55	土地整序型の区画整理を積極的に導入することで、土地の集約などが進み、活用困難地の軽減が図れる。
56	今後は、土地所有者が不明や土地の確認ができないケースがあり、これらの処理が問題となっていく。 早い対応や対策を検討する必要がある。
57	モザイク状に買い取った移転促進区域は、市街化区域だけでなく市街化調整区域の用地もあります。 市街化調整区域と市街化区域間での敷地整序型区画整理事業が可能であれば、移転元地の集約、活用が進みます。等価では換地面積の変動が大きく、等積に近い形であるほうが合意を得やすいのですが、そもそもできないのが今の課題です。
58	土地の問題はかなり複雑で事業を遅らせる原因となるので、国が率先して災害などの復興時は早急に法律を制定して対応していただきたい。
59	用地取得が重要であり、スムーズに行えるよう地籍調査の促進と共に難しいとは思われるが、所有権移転登記手続きの簡素化が図られたらと考えます。
60	復興が長期化すると、生活基盤が他所に移ってしまうため、早期の事業完成が重要。土地所有者の把握（特に相続未登記）に時間がかかる。
61	復興庁が発信していた「復興便り」等は参考になった。
62	地域の特性や状況が千差万別のなかで、復興事業が地域の状況に応じて既成の事業の枠組みを超えて、もっと柔軟に対応できる仕組みあることが望まれる。

（注）以上の「自由意見」は、個人の意見であり、組織の見解とは異なります。
また、一部を除き、具体の自治体名や地区名は伏せてあります。